

はじめにお読みください

このたびは弊社の製品をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。
本書では、以下の項目について説明します。

本書をお読みになる前に	2
簡単な導入と万全の運用	5
本サーバの特長	7
セットアップ	8
サポート & サービス	23
リサイクルについて	24
コンフィグレーションシート	25
使用許諾契約書	32

PRIMERGY マニュアルについて

本サーバの主なマニュアルには、以下の種類があります。各マニュアルの概要は以下となっておりますので、必要に応じて参照してください。

梱包物一覧	: 本サーバの梱包物／添付品の一覧を記載しています。
安全上のご注意	: 本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報を記載しています。本サーバをお使いになる前に熟読し、理解された上で本サーバをお使いください。
はじめにお読みください (本書)	: 本サーバの開梱から運用までの流れを説明しています。電源を入れる前にお読みください。
ハードウェアガイド	: 内蔵オプション装置の取り付け、ハードウェアの設定、およびトラブルシューティングについて説明しています。
ソフトウェアガイド	: OSのインストールからセットアップ、運用までの操作、およびクライアントのセットアップ方法について説明しています。
ServerViewユーザーズガイド	: ServerViewの使用方法を説明しています。
ServerView WebExtension ユーザーズガイド	: ServerView WebExtensionの使用方法を説明しています。
REMCSエージェント運用ガイド	: REMCSエージェントの使用方法を説明しています。

『梱包物一覧』を除く各マニュアルは、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD の以下から参照できます。

[CD-ROM ドライブ] : ¥MANUAL¥INDEX. PDF

各マニュアルは、Adobe Systems 社の Acrobat® Reader で表示できます。

Acrobat® Reader は、バージョン 4.0 以降をご利用ください。

なお、Acrobat® Reader 5.0 は、PRIMERGY ドキュメント & ツール CD の以下からインストールできます。

[CD-ROM ドライブ] : ¥MANUAL¥Setup¥Viewers¥Acrobat5¥ar500.jpn.exe

その他、添付されているドキュメントがある場合には、サーバ設置前に必ずお読みください。

本書をお読みになる前に

安全にお使いいただくために

このマニュアルには、本サーバを安全に正しくお使いいただくための重要な情報が記載されています。本サーバをお使いになる前に、このマニュアルを熟読してください。特に、添付の『安全上のご注意』をよくお読みになり、理解されたうえで本サーバをお使いください。

また、『安全上のご注意』およびマニュアルは、本サーバの使用中にいつでもご覧になれるよう大切に保管してください。

注意

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI）の基準に基づくクラス A 情報技術装置です。この装置を家庭環境で使用すると電波妨害を引き起こすことがあります。この場合には使用者が適切な対策を講ずるよう要求されることがあります。

本装置は、社団法人電子情報技術産業協会のサーバ業界基準（PC-11-1988）に適合しております。

本製品のハイセイフティ用途での使用について

本製品は、一般事務用、パーソナル用、家庭用、通常の産業用等の一般的用途を想定して設計・製造されているものであり、原子力施設における核反応制御、航空機自動飛行制御、航空交通管制、大量輸送システムにおける運行制御、生命維持のための医療器具、兵器システムにおけるミサイル発射制御など、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途（以下「ハイセイフティ用途」という）に使用されるよう設計・製造されたものではございません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本製品を使用しないでください。ハイセイフティ用途に使用される場合は、弊社の担当営業までご相談ください。

本装置は、落雷などによる電源の瞬時電圧低下に対し不都合が生じることがあります。電源の瞬時電圧低下対策としては、交流無停電電源装置などを使用されることをお勧めします。

（社団法人電子情報技術産業協会のパーソナルコンピュータの瞬時電圧低下対策ガイドラインに基づく表示）


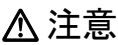
当社のドキュメントには「外国為替および外国貿易管理法」に基づく特定技術が含まれていることがあります。特定技術が含まれている場合は、当該ドキュメントを輸出または非居住者に提供するとき、同法に基づく許可が必要となります。

高調波ガイドライン適合品




本書の表記

■警告表示

本書では、いろいろな絵表示を使っています。これは装置を安全に正しくお使いいただき、あなたや他の人々に加えられるおそれのある危害や損害を、未然に防止するための目印となるものです。その表示と意味は次のようになっています。内容をよくご理解の上、お読みください。



	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡する可能性または重傷を負う可能性があることを示しています。
	この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があること、および物的損害のみが発生する可能性があることを示しています。

また、危害や損害の内容がどのようなものかを示すために、上記の絵表示と同時に次の記号を使っています。

	△で示した記号は、警告・注意を促す内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な警告内容が示されています。
	⊘で示した記号は、してはいけない行為（禁止行為）であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な禁止内容が示されています。
	●で示した記号は、必ず従っていただく内容であることを告げるものです。記号の中やその脇には、具体的な指示内容が示されています。

■本文中の記号

本文中に記載されている記号には、次のような意味があります。

記号	意味
	お使いになる際の注意点や、してはいけないことを記述しています。必ずお読みください。
	ハードウェアやソフトウェアを正しく動作させるために必要なことが書いてあります。必ずお読みください。
→	参照ページや参照マニュアルを示しています。

■キーの表記と操作方法

本文中のキーの表記は、キーボードに書かれているすべての文字を記述するのではなく、説明に必要な文字を次のように記述しています。

- 例：【Ctrl】キー、【Enter】キー、【→】キーなど
- また、複数のキーを同時に押す場合には、次のように「+」でつないで表記しています。
- 例：【Ctrl】+【F3】キー、【Shift】+【↑】キーなど

■コマンド入力（キー入力）

本文中では、コマンド入力を次のように表記しています。

diskcopy a: a:
 ↑ ↑

- ・↑の箇所のように文字間隔を空けて表記している部分は、【Space】キーを1回押してください。
- ・使用するOSがWindowsの場合は、コマンド入力を英大文字、英小文字のどちらで入力してもかまいません。
- ・ご使用の環境によって、「¥」が「\」と表示される場合があります。
- ・CD-ROMドライブのドライブ名を、[CD-ROM ドライブ] で表記しています。入力の際は、お使いの環境に合わせて、ドライブ名を入力してください。
[CD-ROMドライブ]:¥setup.exe

■画面例およびイラストについて

表記されている画面およびイラストは一例です。お使いの機種によって、実際に表示される画面やイラスト、およびファイル名などが異なることがあります。また、このマニュアルに表記されているイラストは説明の都合上、本来接続されているケーブル類を省略していることがあります。

■連続する操作の表記

本文中の操作手順において、連続する操作手順を、「→」でつないで表記しています。

例：「スタート」ボタンをクリックし、「プログラム」をポイントし、「アクセサリ」をクリックする操作

↓

「スタート」ボタン→「プログラム」→「アクセサリ」の順にクリックします。

■製品の呼び方

本文中の製品名称を、次のように略して表記します。

なお、本書ではお使いのOS以外の情報もありますが、ご了承ください。

製品名称	本文中の表記
PRIMERGY T850	サーバ本体／本サーバ
Microsoft® Windows® 2000 Server	Windows 2000 Server、または Windows
Microsoft® Windows® 2000 Advanced Server	
Microsoft® Windows® 2000 Datacenter Server	Windows 2000 Datacenter Server、または Windows
PRIMERGY T850 ドライバーズ CD-ROM	ドライバーズ CD

■サーバのタイプの呼び方

本文中のタイプ名を次のように略して表記します。

タイプ	本文中の表記
内蔵ハードディスクを搭載していないタイプ。	ディスクレスタイプ
Windows 2000 Datacenter Server タイプ。	DTC タイプ

警告ラベル／注意ラベル

本サーバには警告ラベルおよび注意ラベルが貼ってあります。

警告ラベルや注意ラベルは、絶対にはがしたり、汚したりしないでください。

VGA、PS/2 は、米国 IBM の米国での登録商標です。

Microsoft、Windows、MS、Windows NT は、米国 Microsoft Corporation の米国およびその他の国における登録商標です。

Intel、Xeon は、米国インテル社の登録商標および商標です。

Adobe、Acrobat は、Adobe Systems Incorporated（アドビシステムズ社）の商標です。

Chipkill は、米国 IBM 社の商標です。

その他の各製品名は、各社の商標、または登録商標です。

その他の各製品は、各社の著作物です。

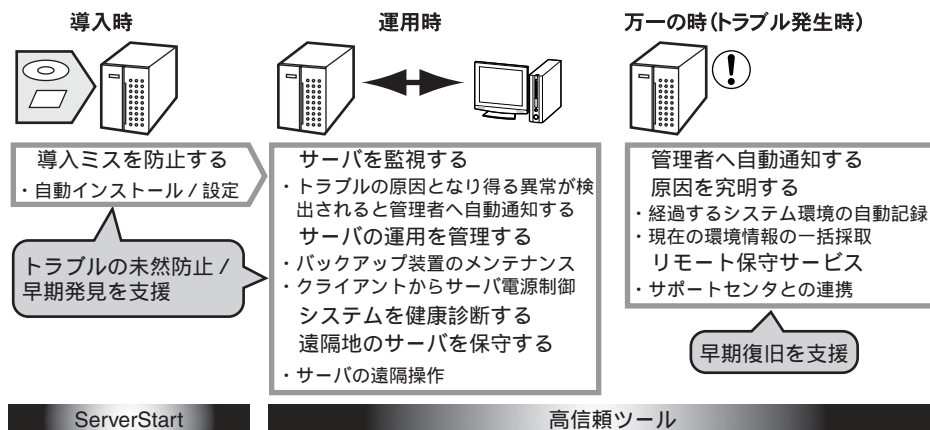
All Rights Reserved, Copyright© FUJITSU LIMITED 2003

画面の使用に際して米国 Microsoft Corporation の許諾を得ています。

簡単な導入と万全の運用

PRIMERGY では、ご購入時にメモリやハードディスクなどのオプション製品を搭載して出荷するカスタムメイドサービスを行っています。さらに、ラック搭載サービスやディスクアレイ設定サービスなどを実施するカスタムメイドプラスサービスも行っています。これらのサービスによって、導入時における作業と時間を短縮することができます。

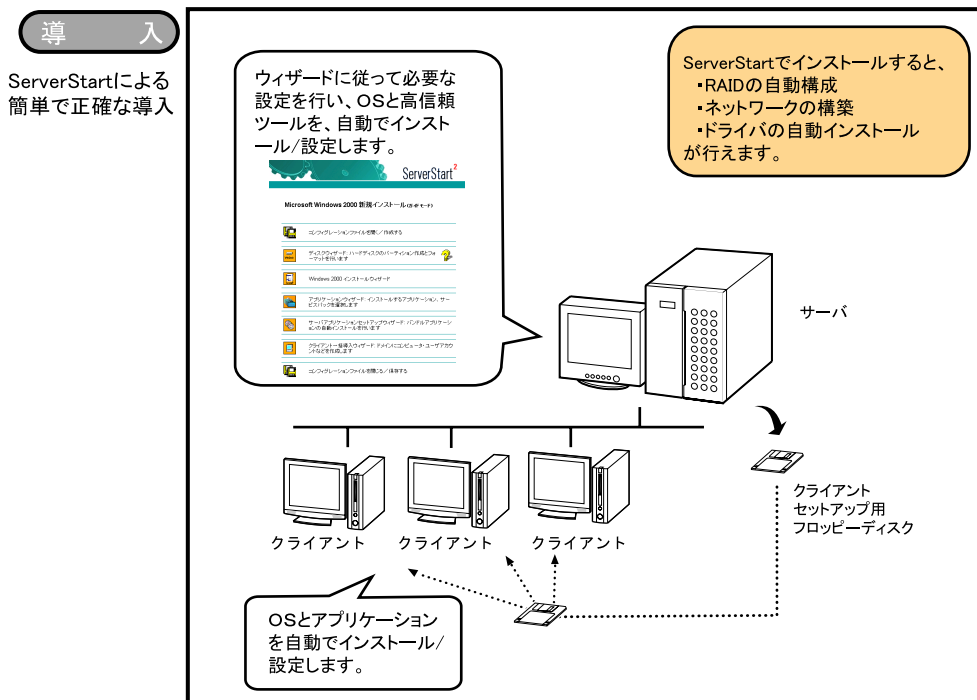
また、弊社独自の支援ツール群により、サーバの簡単な導入と、万全な運用・管理を実現しています。



*) DTCタイプの場合、ServerStart CD-ROMは添付されていません。

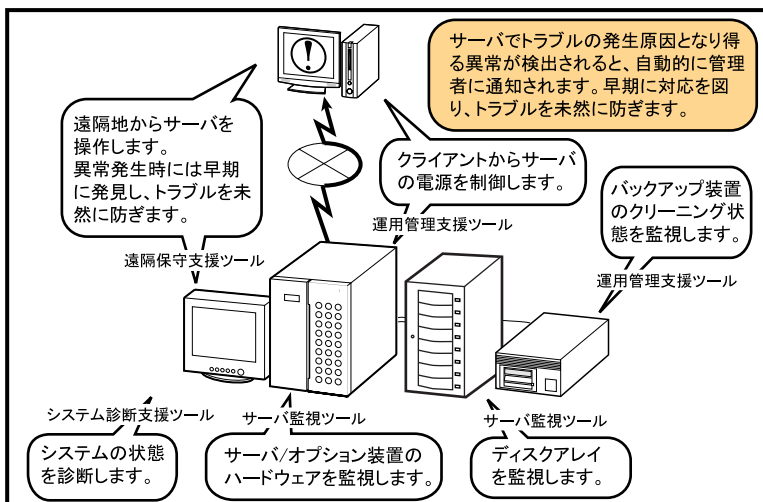
導入と運用の概要

PRIMERGY の導入と運用は、ServerStart と高信頼ツールにより、次のように行えます。



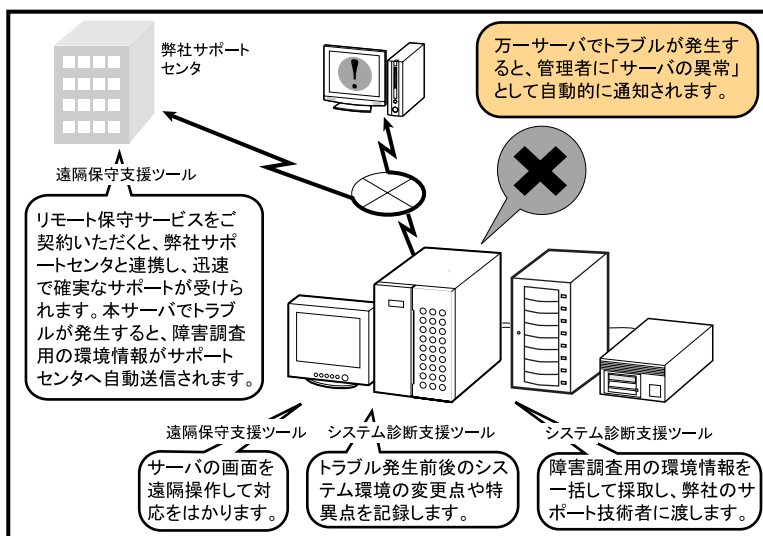
運用

高信頼ツールによるトラブルの未然防止/早期発見



万一の時

高信頼ツールによるトラブル発生時の早期修復



高信頼ツールについて

高信頼ツールは、サーバ管理において、システムの安定稼動のために総合力を発揮するソフトウェア群です。通常運用時からトラブル発生時の復旧までを次の各ツールが役割を分担します。サーバ監視ツールは必ずインストールしてください。

ツール群	ツール	役割
サーバ監視ツール	ServerView	サーバ異常の早期発見
	RAID 管理ツール	ディスク異常の早期発見
	RAS 支援サービス	定期交換部品の状態監視
運用管理支援ツール	Tape Maintenance Checker	テープ装置の管理
	Power MANAgement for Windows	効率的な電源制御
	Chronoworker/S	サーバ同士の時刻合わせ
システム診断支援ツール	FM Advisor	システムの健康診断
	PROBEPRO	トラブル原因の早期発見
	DSNAP	
遠隔保守支援ツール	SystemWalker / LiveHelp® Client	サーバの遠隔操作
	REMCS エージェント	サポートサービス

高信頼ツールは、ServerStart を使用して OS のインストールを行う際に、同時にインストールできます。各ツールについての概要など、詳細は『ソフトウェアガイド 第 1 章 概要』を参照してください。

本サーバの特長

本サーバには、以下のような特長があります。

高信頼性の実現

●PC133 仕様に準拠したメモリによる高度なメモリ保護機能をサポート

リダンダントビットステアリング機能 (Redundant Bit Steering)、Chipkill メモリ機能、メモリ・ミラーリング機能などによる高度なメモリ内データ修復機能を実現しています。

●ディスクアレイシステムを構成可能

オプションの SCSI アレイコントローラカードとハードディスクキャビネットを使用して、ディスクアレイシステム (RAID0/1/5) を構成できます。

●冗長機能をサポート

ハードディスク、電源ユニット、システムファンは冗長機能をサポートしています。

SCSI アレイコントローラカード使用時は、ハードディスクユニットの故障時に、本サーバおよび周辺装置の電源を切ることなく、ハードディスクユニットの交換および復旧作業を行うことができます (ホットプラグ対応。ただし、RAID0 構成時を除く)。

●ハード/ソフト両面でのデータセキュリティを実現

サーバ本体内のハードウェアおよびソフトウェア資産を盗難などから守るため、ラックの施錠、および BIOS セットアップユーティリティによるセキュリティ設定 (パスワード設定) によって、信頼度の高いデータセキュリティを実現します。

●プロアクティブファン機能のサポート

ファンの故障や周囲温度の上昇にともなって、自動的にシステムファンの回転数を上げ、サーバ内部温度の上昇を抑えることにより、サーバの安定稼動を実現します。

●リモートサービスコントローラを標準搭載

サーバとは独立して動作する「リモートサービスコントローラ」を標準搭載していますので、サーバの状態を常に監視できます。リモートサービスコントローラは高信頼ツールと連携して、以下の機能を管理者に提供します。

- ・サーバの状態監視
- ・サーバ異常時の管理者への通知
- ・サーバ異常時の自動シャットダウン
- ・サーバの遠隔操作
- ・サーバのスケジュール運転

●高信頼ツールの提供

前述の高信頼ツールにより、システムの安定稼動を実現します。

→「高信頼ツールについて」(P.6)

高速な処理

●インテル® Xeon™ プロセッサ MP を搭載

データを高速に処理できるインテル® Xeon™ プロセッサ MP を搭載しており、最大 8 個まで搭載できます。

また、物理的に 1 個の CPU を論理的に 2 個の CPU として扱うことのできる、ハイパー・スレッディング・テクノロジーもサポートしており、高効率かつ高速な処理が実現できます。

●PCI-X を採用

最大データ転送速度 3.2GB/秒を誇る PCI-X バスを搭載しています。

●Ultra 160 SCSI をサポート (オンボード SCSI)

オンボード SCSI は、最大 160MB/秒の転送速度を持つ Ultra 160 SCSI をサポートしていますので、高速データ転送を実現します。

コンパクトデザイン・拡張性

●厚さ 4U の省スペース設計

本サーバは、厚さ 4U のラックマウントタイプのサーバです。また、19 インチのラックを採用しているため、本体装置、ディスプレイ、キーボード、外付け SCSI 装置などを効率的に収納し、設置場所にスペースをとりません。

●メモリは最大 32GB

メモリは標準で 2GB 搭載しており、最大 32GB まで拡張できます。

●ハードディスクは最大 146.8GB

最大 2 個の 3.5 インチサイズのハードディスクドライブ用ベイを用意しており、最大 146.8GB まで拡張できます。

●内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを搭載可能

内蔵 DVD-ROM ドライブユニットを標準で搭載しています。

●6 つの PCI スロットを用意

PCI スロットは、64 ビット 133MHz で動作する「PCI-X」をはじめ、合計 6 つの PCI スロットを用意しています。

- ・ 64 ビット 133MHz × 2 スロット
- ・ 64 ビット 100MHz × 2 スロット
- ・ 64 ビット 66MHz × 2 スロット

セットアップ

ここでは、開梱から ServerStart を使ってセットアップするときの運用までの流れを示しています。

以下の手順に従ってセットアップ作業を行ってください。

1	梱包物を確認する	8
2	内蔵オプションを取り付ける	8
3	設置場所を確認して設置する	9
4	周辺装置を接続する	13
5	電源を入れてハードウェアを設定する	14
6	サーバ管理機能のセットアップ	15
7	ファームウェアを更新し、メンテナンス区画を作成する	18
8	ソフトウェアをインストールする	19
9	メモリダンプ用の領域を確保する	21
10	電源を切る	21
11	残りのオプション装置を取り付ける	22
12	システムの状態を確認／退避する	22
13	お客様登録	23

1 梱包物を確認する

セットアップを開始します。

『梱包物一覧』を参照し、梱包物／添付品がそろっているか確認してください。万一、欠品などがございましたら、担当営業員に連絡してください。

カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合は、添付の『カスタムメイドサービス実装・設定情報』および『構成成品一覧』を参照してください。

2 内蔵オプションを取り付ける

サーバ本体に内蔵オプションを取り付けます。

次の場合は、「3 設置場所を確認して設置する」(→ P.9)に進みください。

- カスタムメイドサービスを利用してご購入された場合
- 内蔵オプションを取り付けない場合

重要

- ▶ 次のオプションは、OS と必須ソフトウェアをインストールしたあとで取り付けてください。以下のオプションを取り付けたままインストール作業を行うと、異常終了することがあります。
 - ・ OS をインストールしないハードディスクユニット
 - ・ SCSI オプション装置（光磁気ディスクユニット、ハードディスクキャビネットなど）

準備する

内蔵オプションを取り付ける前に、本書および添付の『安全上のご注意』を熟読した上で、以下のものを準備してください。

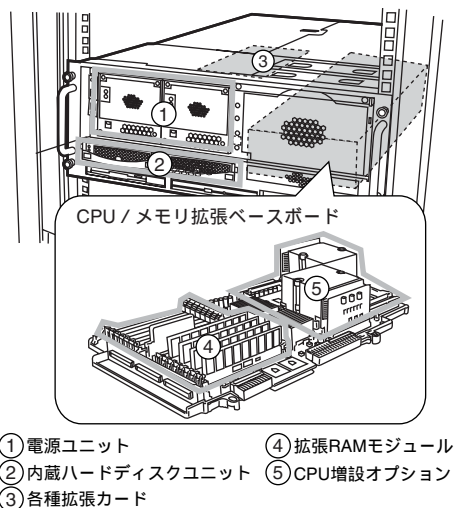
- プラスドライバとマイナスドライバ

重要

- ▶ 内蔵オプションは、基板や半田づけした部分がむきだしになっています。これらの部分は、人体に発生する静電気によって損傷を受ける場合があります。取り扱い前に、サーバ本体の金属部分に触れて人体の静電気を放電してください。また、基板表面、半田づけ部、およびコネクタ部には触れないように、金具の部分や基板の縁を持つようにしてください。

内蔵オプションの種類と取り付け位置

内蔵オプションの種類と取り付け位置を示します。



実際に内蔵オプションを取り付ける場合は、次のマニュアルを熟読の上、作業を行ってください。

→ 『ハードウェアガイド 第4章 内蔵オプションの取り付け』

→ オプション装置に添付のマニュアル

POINT

- ▶ 内蔵オプションを搭載後、搭載場所や搭載順序が正しいこと、ケーブルが確実に接続されていることを確認してください。

3 設置場所を確認して設置する

『安全上のご注意』を熟読の上、本サーバを設置します。

設置場所の条件

本サーバを設置するときは、以下の場所は避けてください。

- 湿気やほこり、油煙の多い場所
- 通気性の悪い場所
- 火気のある場所
- 風呂場、シャワー室などの水のかかる場所
- 直射日光の当たる場所や、暖房器具の近くなど、高温になる場所
- 周囲温度が 10 ～ 35℃ をはずれる場所
- 湿度が 20 ～ 80% をはずれる場所
- 塩害地域
- 腐食性ガスが発生する地域
- 電源ケーブルなどのケーブルが足に引っかかる場所
- テレビやスピーカーの近くなど、強い磁気が発生する場所
- 振動の激しい場所や傾いた状態など、不安定な場所

項目		設置条件
温度	動作時	10 ～ 35℃
	休止時	-5 ～ 55℃
湿度	動作時	20 ～ 80%RH(結露しないこと)
	休止時	
温度勾配	動作時	15℃/hr 以下(結露しないこと)
	休止時	
AC 入力条件	電圧	本体：AC200 ～ 240V 周辺機器：AC100 ～ 120V
	周波数	50/60Hz
浮遊塵埃		0.15mg/m ³ 以下

重要

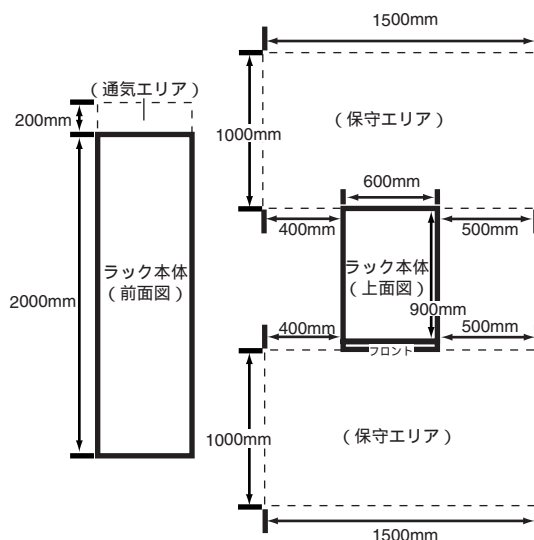
- ▶ 本サーバは、一般的な事務所への設置を考慮しています。静粛性を必要とする場所でのご使用時には、できる限り人とサーバ本体の設置場所を離すようにご配慮願います。
- ▶ 本サーバは、下記の Power OFF 温度に達すると、ServerView の設定にかかわらず電源が切れる仕様となっています。
データやハードウェアの保護のためにも空調などのサーバの設置環境条件に注意してください。

	Critical	Power OFF
CPU 温度	90℃	95℃
周囲温度	41℃	44℃

設置スペース

ラックを設置するときは、放熱と保守用にスペースが必要です。次のスペースを確保してください。

なお、40U のスリムラックを元に説明しています。その他のラックの設置スペースについては、ラックに添付の取扱説明書を参照してください。

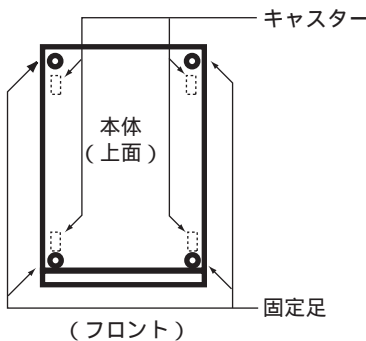


ラックを設置する

サーバを搭載するラックを設置します。詳細は、『ラック設置ガイド』を参照してください。
なお、ラックの固定と転倒防止用スタビライザの取り付けは必ず行ってください。

■ラックの固定

ラック設置後、ラックの底面にある固定足でラックを固定してください。
キャスターだけで長時間固定すると、キャスターが破損・変形します。
固定足を使用し、キャスターを床面から 2mm 以上あげて固定します。



■転倒防止用スタビライザの取り付け

ラック固定後、ラックに転倒防止用スタビライザを取り付けてください。

⚠ 警告



- ・ 転倒防止用のスタビライザは、設置時に必ず取り付けてください。
取り付けない状態でラック内部のサーバ本体を引き出すと、ラックが転倒するおそれがあります。

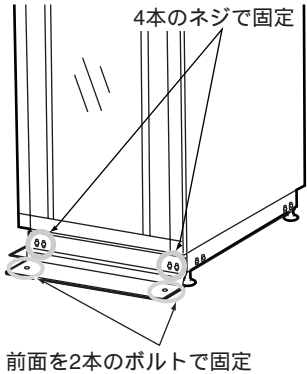
以下に、転倒防止用スタビライザの取り付け手順を示します。

- 1 ラックを設置し、ラック底面にある固定足でラックを固定します。

→「■ ラックの固定」(P.10)

2 スタビライザを取り付けます。

スタビライザを 4 本のネジ (スタンダードラックの場合は 2 本のネジ) でラックに取り付けます。
次に、スタビライザを床面に固定します。スタビライザは、2 本のボルトで床面に固定します。
なお、床面に固定するボルトは、別途必ず購入する必要があります。



POINT

- ▶ オプションとして、側面と背面のスタビライザもあります。

設置

■サーバ本体のラックへの搭載手順


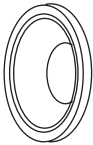
ここでは、サーバ本体をラックに搭載する手順について説明します。

👉 重要

- ▶ サーバ本体をラックに搭載したりラックから取り外す場合は、担当保守員に連絡してください。

●ラックマウントキットの梱包物を確認する

以下のリストに従って部品がすべてそろっているかどうかを確認し、万一足りない部品があった場合は担当営業員に連絡してください。

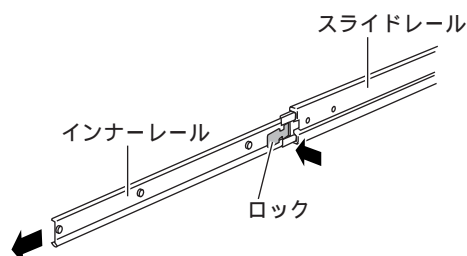
部品	
□ スライドレール : 2 	□ サラワッシャー (M5) : 4 

部品	
□ブラケット：左右各 1	□サラネジ (M5)：4
□位置決め用部品：4	□平ネジ (M4)：16
□ラックナット：4	

●サーバ本体へのインナーレールの取り付け

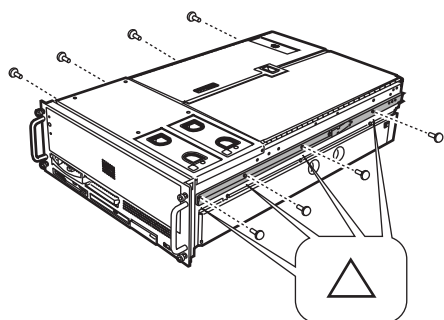
- 1 左右のスライドレールから、インナーレールを取り外します。

インナーレールのロックを押し、スライドさせて取り外します。



- 2 サーバ本体にインナーレールを取り付けます。

サーバ本体の左右側面に刻まれている△印のネジ穴にインナーレールのネジ穴を合わせ、片側各 4 本の平ネジでインナーレールを固定します。



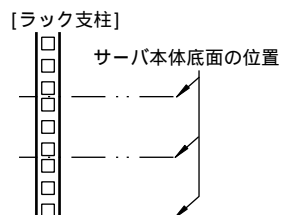
●サーバ本体の取り付け位置の選択

- 1 ラックのフロントドアとリアドアを開けます。

→『ハードウェアガイド 第 3 章 基本的な操作』

- 2 サーバ本体を取り付ける位置を決めます。

任意の、ラック支柱の穴の間隔が狭い位置にサーバ底面がくるように合わせます。

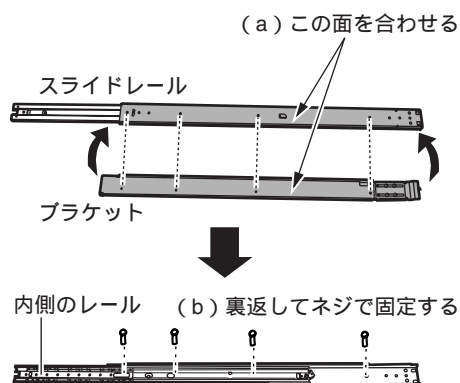


●ブラケットおよびスライドレールの取り付け

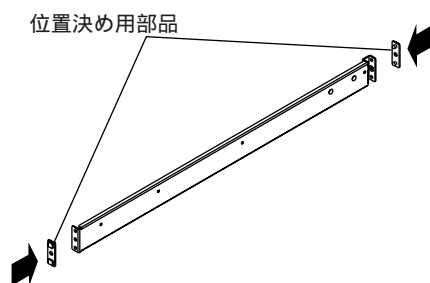
本サーバは 4U 使用します。

- 1 スライドレールをブラケットに取り付けます。

スライドレールの内側のレールをスライドさせながらネジ穴を合わせ (a)、4 本の平ネジで固定します (b)。



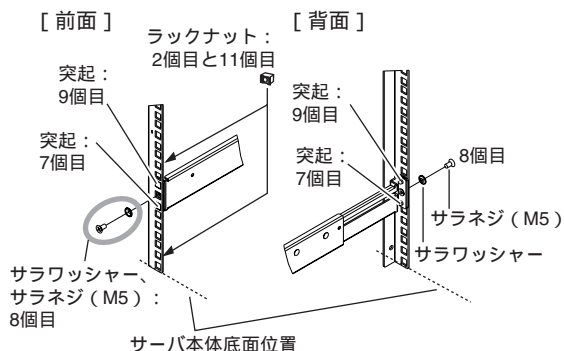
- 2 ブラケットに、位置決め用部品を取り付けます。



3 ブラケットをラック支柱に取り付けます。

ブラケット前後に取り付けた位置決め用部品の突起が、本体を取り付ける底面の位置から7個目と9個目の穴にはめ込めるようにブラケットの長さを調整します。

次に、サーバ本体を取り付ける底面の位置から8個目の位置にサラワッシャーとサラネジ (M5) を使用してブラケットの前後をラック支柱に固定します。

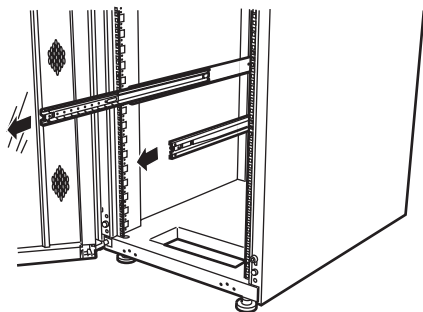


4 前面側にラックナットを取り付けます。

サーバ本体を取り付ける底面の位置から2個目と11個目の穴に、ラックレールの内側からツメを引っ掛けて取り付けます。

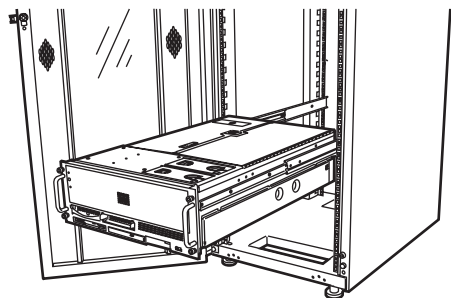
●ラックへの搭載

1 スライドレールの内側のレールを「カチッ」と音がするまで手前に引き出します。



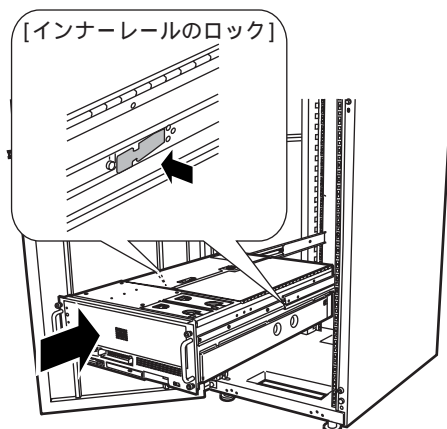
2 サーバ本体をスライドレールに載せます。

サーバ本体に取り付けたインナーレールをラックに取り付けたスライドレールに合わせて載せます。



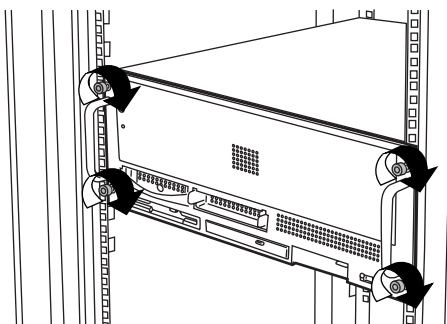
3 サーバ本体を後方にスライドさせ、ラックに搭載します。

左右のインナーレールのロックを押しながら、サーバ本体をラックの奥までスライドさせます。



4 サーバ本体をラックに固定します。

フロントパネルをラック支柱に、4本のネジで固定します。



重要

▶ ラックにサーバおよび周辺装置が搭載されていない場合には、ラックに添付のブランクパネルを取り付けてください。

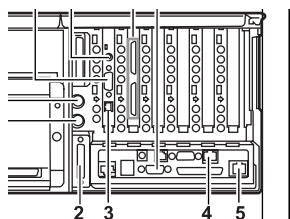
ブランクパネルの取り付け方法については、『ラック設置ガイド』を参照してください。

4 周辺装置を接続する

サーバ本体にキーボードやマウスなどの周辺装置を接続します。

『安全上のご注意』を熟読の上、周辺装置を接続します。

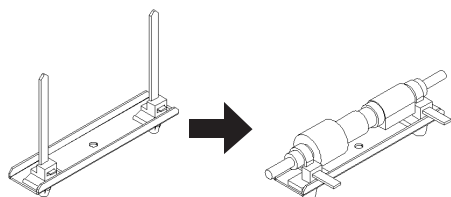
接続全体図



- 1 電源ケーブル
- 2 バックアップキャビネット
- 3 LAN ケーブル (リモートサービスボード用)
- 4 LAN ケーブル (オンボード管理コントローラ用)
- 5 LAN ケーブル (ユーザ LAN インタフェース用)
- 6 キーボード
- 7 マウス
- 8 モデム
- 9 AC アダプタ
- 10 ハードディスクキャビネット
- 11 ディスプレイ

重要

- ▶ 電源ケーブルおよび AC アダプタは、各周辺装置の接続が終了してから接続してください。
- ▶ キーボードおよびマウスを接続する場合は、それぞれケーブルと延長ケーブルをキーボード・マウス抜け防止金具で固定してください。

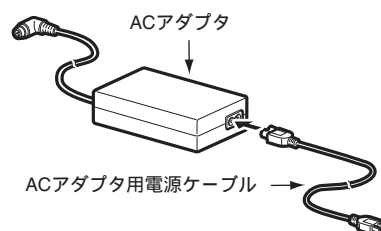


[キーボード・マウス抜け防止金具]

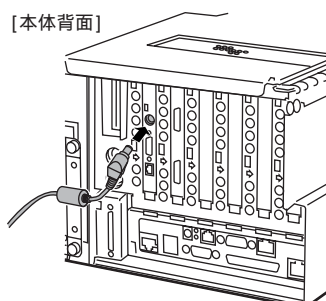
AC アダプタの接続

サーバ本体に AC アダプタを接続します。

- 1 ACアダプタ本体とACアダプタ用電源ケーブルを接続します。



- 2 AC アダプタをサーバ本体に接続します。
AC アダプタのプラグを AC アダプタ用コネクタに接続します。



- 3 電源ケーブルをコンセントに接続します。
もう片方のプラグを、コンセントに接続します。

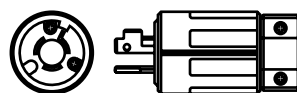
電源ケーブルの接続

すべての周辺機器を接続したら、最後にサーバ本体に電源ケーブルを接続します。

POINT

- ▶ 本サーバは、AC200Vの電源供給で動作します。本サーバの AC ケーブルのプラグ、および設置場所に必要な電源コンセントの形状は、以下のとおりです。

AC200V電源ケーブル・プラグ形状
(NEMA L6-15P)



AC200V電源・コンセント形状
(NEMA L6-15R)

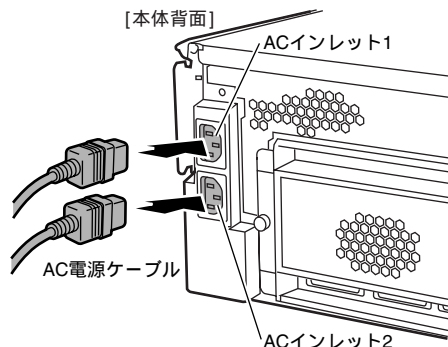


■接続手順

1 電源ケーブルをサーバ本体に接続します。

電源ケーブルのプラグをサーバ本体背面のインレットに接続します。

オプションのバックアップキャビネットやハードディスクキャビネットを接続している場合は、それらの電源ケーブルも接続してください。



●POINT

- ▶ サーバ本体の AC インレットは電源ユニット 1 へ、AC インレット 2 は電源ユニット 2 へ、それぞれ配線されます。

2 電源ケーブルをコンセントに接続します。

もう片方のプラグを、コンセントに接続します。

5 電源を入れてハードウェアを設定する

本サーバを正常に動作させるため、BIOS や SCSI のユーティリティを使ってハードウェアを設定します。

以下のものを準備します。

●ディスクレスタイプの場合：

- ・ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク
「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを作成する（ディスクレスタイプの場合）」（→ P.14）を参照して ServerStart CD-ROM から作成してください。

●DTC タイプの場合：

- ・ドライバーズ CD（本体添付）

各ユーティリティの設定や詳細については、『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

✎重要

- ▶ 電源を入れた直後、必ずハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクまたはドライバーズCDをセットしてください。

- ▶ 通常、ハードウェアの設定は、ご購入時設定値から変更する必要はありません。

「2 内蔵オプションを取り付ける」（→ P.8）でオプション装置を取り付けた場合のみ、各ユーティリティ（BIOS セットアップユーティリティまたは SCSI Select ユーティリティ）を起動して、ハードウェアの設定を確認／変更してください。

■BIOS セットアップユーティリティについて

次の場合に設定を変更します。

- 本サーバを起動するドライブを変更するとき
- POST 中にメッセージが表示されたとき
- 本サーバにパスワードを設定するとき
- OS を変更するとき

■SCSI Select ユーティリティについて

次の場合に設定を変更します。

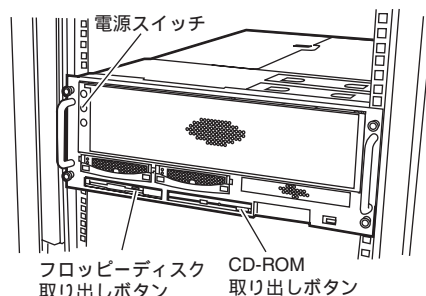
- SCSI オプション装置を取り付け／取り外したとき

ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを作成する（ディスクレスタイプの場合）

ディスクレスタイプの場合は、本サーバに添付の ServerStart CD-ROM からハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを作成します。

1 サーバ本体の電源を入れ、ServerStart CD-ROM をセットします。

「フロッピーディスクドライブに、ServerStart フロッピーディスクを挿入してください」というメッセージが表示されます。



2 本サーバに添付の ServerStart フロッピーディスクを本体にセットして、[作成] をクリックします。

3 [ServerStart フロッピーディスクを挿入し ServerStart を起動する] をクリックします。

ServerStart の画面が表示されます。

4 ServerStart フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブから抜き出します。

5 「フロッピービルダ」をクリックします。

フロッピービルダの画面が表示されます。

- 6 「ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの作成」をクリックします。
メッセージに従って、本サーバに添付のハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットしてください。
- 7 以降は画面のメッセージに従い、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを作成します。
- 8 画面左上の [Exit] ボタンをクリックし、メッセージに従い ServerStart CD-ROM とフロッピーディスクを抜きます。



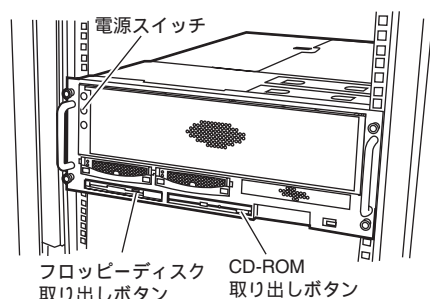
電源を入れてハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクまたはドライバーズ CD をセットする

重要

- ▶ 本サーバの電源を入れた直後にファンが高速回転しますが、故障ではありません。サーバ本体環境条件の温度条件（10 ～ 35℃）の範囲内であれば、しばらくしてから、通常の回転になります。

手順

- 1 ディスプレイなどの周辺装置の電源を入れます。
- 2 電源を入れ、以下のものをセットします。
サーバ本体前面の電源スイッチを押します。
 - ・ ディスクレスタイプの場合：
 - すぐに、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクをセットします。
 - ・ DTC タイプの場合：
 - すぐに、CD-ROM 取り出しボタン（EJECT）を押し、ドライバーズ CD をセットします。



- 3 オプション装置を取り付けた場合、各ユーティリティを起動してハードウェアを設定します。
 - ・ BIOS セットアップユーティリティの起動
「Press F1 for Configuration/Setup」と表示されたら、メッセージが表示されている間に、【F1】キーを押します。
 - ・ SCSI Select ユーティリティの起動
「Press <Ctrl><A> for SCSI Select(TM) Utility」と表示されている間に【Ctrl】+【A】キーを押します。

各ユーティリティの詳細については、『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』を参照してください。各ユーティリティを終了すると、本サーバが再起動します。
「6 サーバ管理機能のセットアップ」（→ P.15）にお進みください。

6 サーバ管理機能のセットアップ

本サーバの安定稼動のために、システムの動作を常に監視できるようにサーバ管理機能のセットアップを行います。
ここでは、システム管理ポートとリモートサービスボードの初期設定についての手順を説明します。

POINT

- ▶ サーバ管理機能のご購入時の IP アドレスは、以下のとおりに設定されています。
 - ・ システム管理ポート：192.168.0.9
 - ・ リモートサービスボード：192.168.0.10

重要

- ▶ 本セットアップは、サーバに LAN ケーブルを接続せずに行ってください。
- ▶ 本セットアップのあとにも、IP アドレスなどのネットワーク設定は変更できます。

■セットアップを始める前に

セットアップには、以下のものがが必要です。セットアップを始める前に準備してください。

- サーバ本体、ディスプレイ、キーボード
- Remote Supervisor Utility フロッピーディスク
- Server Management Tools フロッピーディスク
- ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスク（ディスクレスタイプの場合）
- ドライバーズ CD（DTC タイプの場合）
- システム管理ポートとリモートサービスボードの各 LAN インタフェースに割り当てる IP アドレス・サブネットマスク・ゲートウェイのアドレス

- システム管理ポートに対する固有の識別名（英数字最大 15 文字）と識別番号（数字最大 15 桁）

POINT

- ▶ システム管理ポートとリモートサービスボードの LAN は、同一サブネット内に接続する必要があります。
- ▶ システム管理ポートとリモートサービスボードにそれぞれ装備されている LAN インタフェースに割り当て IP アドレス、サブネットマスク、ゲートウェイのアドレスについて、本サーバを設置する場所のネットワーク管理者とご相談の上、あらかじめ決めておいてください。
- ▶ システム管理ポートの固有識別名は、電子メールや SNMP のイベント通知情報の中に含まれ、イベントの発信元を特定するために利用します。この固有識別名は、Ethernet 設定で IP ホスト名の長さを英数字で最大 15 文字までに制限すれば、その IP ホスト名と共通の名前を付けることができます（通常この IP ホスト名は英数字で最大 63 文字まで設定できます）。IP ホスト名と共通の固有識別名をつける場合は、本サーバを設置する場所のネットワーク管理者とご相談の上、あらかじめ決めておいてください。

重要

- ▶ オプションの CPU / メモリ拡張ベースボードを使用して 8CPU 構成としている場合、本設定を行う際は SMP 拡張ケーブルを取り外しておく必要があります。本設定の終了後に、再度 SMP 拡張ケーブルを接続します。感電のおそれがありますので、SMP 拡張ケーブルを取り外す前に、サーバ本体から電源ケーブルをすべて取り外してください。
- ▶ 本設定で、リモートサービスボード用の AC アダプタの接続は不要です。OS インストール後、サーバが稼動状態になってから接続してください。
万一、AC アダプタを使用して本設定を行う場合は、サーバ本体の電源ケーブルを先に接続し、AC アダプタはリモートサービスボードの電源ランプが点灯したことを確認してから接続してください。

■セットアップ手順

オプションの CPU / メモリ拡張ベースボードを使用して 8CPU 構成としている場合、SMP 拡張ケーブルが取り外されているかどうかを確認します。取り外されていない場合には、いったんサーバ本体から電源ケーブルを取り外し、SMP 拡張ケーブルを取り外してください。

- 1 本サーバにディスプレイおよびキーボードが接続されていることを確認し、電源ケーブルを接続します。
- 2 リモートサービスボードの電源ランプが点灯していることを確認します。
- 3 Remote Supervisor Utility フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
- 4 サーバ本体前面の電源スイッチを押し、電源を入れます。
OS 起動後、「Remote Supervisor Utility」の初期メニューが表示されます。

重要

- ▶ Remote Supervisor Utility では、以下の項目のみ使用できます。
 - ・ Configuration Settings のサブメニュー内
 - General Settings
 - Ethernet Settings
 - ・ Exit Utilityその他の項目は、動作を保証していません。
- 5 初期メニューで「Configuration Settings」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
- 6 Configuration Settings メニューが表示されます。「General Settings」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。
- 7 システム管理ポートに対し、固有の識別名（Name）および識別番号（Number）を設定します。

- ・ General Settings

Name :	システム管理ポートの固有識別名を最大15文字の英数字で入力します。
Number :	システム管理ポートの固有番号（任意）を最大 15 文字の数字で入力します。

- 8 同じ画面にある「System Management Processor Clock」で、システム管理コントローラ用の時刻および日付を設定します。

- ・ System Management Processor Clock

Time :	システム管理コントローラ用の時刻を設定。時間は 24 時間形式で入力します。たとえば、午後 6 時 30 分 00 秒は、「18」、「30」、「00」と入力します。
Date :	システム管理コントローラ用の日付を設定。たとえば、2002 年 8 月 20 日は、「08」、「20」、「02」と入力します。

- 9 設定を終えたら【F6】キーを押して、設定・変更箇所を保存します。
- 10 【Esc】キーを押して、Configuration Settings メニューに戻ります。
- 11 「Ethernet Settings」にカーソルを合わせ、【Enter】キーを押します。

- 12** システム管理ポートの LAN インタフェースに対し、以下の設定を行います。

Network Interface :	LAN インタフェースを使用するため、「ENABLED」を選択。
IP Address :	システム管理ポート用の IP アドレスを入力。
Subnet Mask :	サブネットマスクを入力。
Gateway :	ゲートウェイアドレスを入力。
Host Name :	IP ホスト名を入力 (英数字で最大 63 文字まで。ただし、システム管理ポートの固有識別名と共通名にする場合は、英数字で最大 15 文字まで)。
DHCP Settings :	DHCP サーバを使用せず IP アドレスを設定するため、「DISABLED」を選択。

- 13** 設定を終えたら、【F6】キーを押して設定・変更箇所を保存します。

POINT

- ▶ 以下のメッセージが表示された場合には、【Enter】キーを押してシステム管理コントローラを再起動します (サーバ本体は再起動されません)。

WARNING!! WARNING!!

Changes have been made to the System Management Adapter's configuration. The System Management Adapter must be restarted for these changes to take effect.

Press Enter to restart. Press ESC to defer until exit.

- 14** 【Esc】キーを押して、Configuration Settings メニューに戻ります。
- 15** 再度、【Esc】キーを押して、初期メニューに戻ります。
- 16** 初期メニューで、「Exit Utility」を選んで【Enter】キーを押すか、または【Esc】キーを押して、Exit Utility 画面を表示させます。
- 17** 「Yes, exit utility」を選択して【Enter】キーを押し、「Remote Supervisor Utility」を終了します。
ユーティリティが終了すると、以下のメッセージが表示されます。

Remove the diskette from the drive and
Press Enter to restart the system

- 18** フロッピーディスクドライブから Remote Supervisor Utility フロッピーディスクを取り出し、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクまたはドライバーズ CD をセットし、【Enter】キーを押してシステムを再起動します。

OS 起動後、次の画面が表示されます。「1.Server Management Tool」 (ドライバーズ CD の場合は

「4.Basic (BIOS Environment Support Tools)」を選択し、【Enter】キーを押します。

- ・ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクの場合

MS-DOS 6.2 Startup Menu

- 1.Server Management Tool
- 2.Basic(Bios Environment Support Tools)
- 3.Basic (RAIDUTIL)
- 4.Basic (Japanese Environment)
- 5.HDD firmware update
- 6.System Setup Utility(SSU) for N800

- ・ドライバーズ CD の場合

MS-DOS 6.2 Startup Menu

- 1.DEFAULT
- 2.Make maintenance partition (startup only)
- 3.Drivers Disk(Using diskette Utility)
- 4.Basic(BIOS Environment Support Tools)
- 5.Basic(RAIDUTIL)
- 6.Basic(Japanese Environment)
- 7.HDD firmware update
- 8.firmware update

- 19** DOS プロンプト (A:\>) が表示されたら、ハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクまたはドライバーズ CD を取り出し、Server Management Tools フロッピーディスクをセットします。
- 20** リモートサービスボードとシステム管理ポートの連携のため、以下のコマンドを入力します。
なお、コマンドライン末尾の「aaa,bbb,ccc,ddd」部分には、システム管理ポートの IP アドレスを入力します。このとき、IP アドレスの区切りには「. (ピリオド)」を使用せず、「, (カンマ)」を使用します。

```
A:\> spman -cmda=0xE002, 0x1440, 0, 0, aaa, bbb, ccc, ddd  
【Enter】
```

たとえば、システム管理ポートに割り当てた IP アドレスが「192.168.0.10」の場合、以下のように入力します。

```
A:\> spman -cmda=0xE002, 0x1440, 0, 0, 192, 168, 0, 10  
【Enter】
```

- 21** コマンドが完了すると再び DOS プロンプトが表示されるので、以下のコマンドで SERVICE PROCESSOR TOOL を起動し、リモートサービスボードの設定を行います。

```
A:\> spman 【Enter】
```

重要

▶ SERVICE PROCESSOR TOOL では、以下の項目のみ使用できます。

- Error and Message Log
- LAN / Serial Interface / User / SNMP Configuration
- Server Management Control Settings

その他の項目は、動作を保証していません。

22 「Service Processor Tool」の初期メニューで、カーソルキーを使って「LAN / Serial Interface / User / SNMP Configuration」を選択し、【Enter】キーを押します。

23 リモートサービスボードのLAN インタフェースに対し、以下の設定を行います。

IP Address :	リモートサービスボードのIPアドレスを入力。
IP Subnet Mask :	サブネットマスクを入力。
IP Gateway :	ゲートウェイアドレスを入力。

24 設定を終えたら、【F1】キーを押して設定・変更箇所を保存します。

25 「Settings have been stored.」と表示されたら、【Enter】キーを押し、初期メニューに戻ります。

26 再度、「LAN / Serial Interface / User / SNMP Configuration」を選択して【Enter】キーを押したあと、【F2】キーを押して、「User Account」画面を表示します。

27 「User Account」画面にて、デフォルトで定義されているユーザ ID とパスワードを変更して、システム管理者用の任意のユーザ ID とパスワードを設定します。カーソルキーでユーザ ID の「1. root」を選択し、【Enter】キーを押し、「User Account 1」画面を開きます。

UserName :	ご購入時（デフォルト）は、「root」です。システム管理者用の新しいユーザ ID を最大 20 文字の英数字で上書き入力します。
Password :	ご購入時（デフォルト）は、「fsc」です。システム管理者用の新しいパスワードを 5 ～ 8 文字の長さで、かつその中に少なくとも 1 つの英字と 1 つの英字以外のもの（数字など）を含める必要があります。
Permissions :	ご購入時（デフォルト）のまま変更しないでください。

28 設定を終えたら、【F1】キーを押して設定・変更箇所を保存します。「Settings have been stored.」と表示されたら、【Enter】キーを押し、「User Account」画面に戻ります。

29 【Esc】キーを3回押して、SERVICE PROCESSOR TOOL を終了します。

以上で設定は終了です。ディスクレスタイプの場合は、「8 ソフトウェアをインストールする」（→ P.19）、DTC タイプの場合は、「7 ファームウェアを更新し、メンテナンス区画を作成する」（→ P.18）にお進みください。

注意



- ・ オプションのCPU／メモリ拡張ベースボードを使って 8CPU 構成とし、かつ OS および ServerView のインストールが完了した際には、SMP 拡張ケーブルを取り外している場合には、感電のおそれがありますので、いったんサーバ本体から電源ケーブルを取り外してから、SMP 拡張ケーブルを取り付けます。その後、再度サーバ本体に電源ケーブルを取り付けます。

7 ファームウェアを更新し、メンテナンス区画を作成する

DTC タイプの場合は、OS をインストールする前にファームウェアを更新し、メンテナンス区画を作成します。

ディスクレスタイプの場合は、「8 ソフトウェアをインストールする」（→ P.19）にお進みください。

ファームウェアの更新

本サーバにファイバーチャネルカード（PG-FC102）を搭載している場合には、以下の操作を行ってください。ファイバーチャネルカードを搭載しない場合は、「メンテナンス区画の作成」（→ P.19）にお進みください。

1 サーバ本体の電源を入れ、ドライバーズ CD をセットします。

2 「8. Firmware update」を選択して、【Enter】キーを押します。

3 以下のコマンドを入力します。

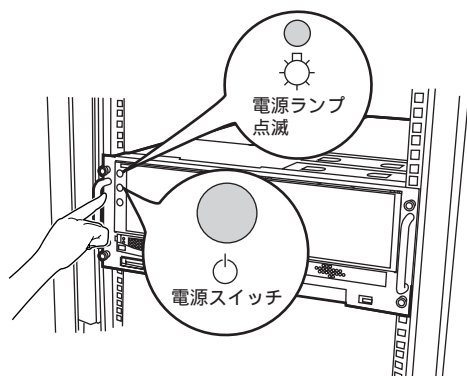
```
Z: 【Enter】  
cd ¥FIRMWARE¥FC¥QLA2200 【Enter】  
UPDATE. BAT 【Enter】
```

本サーバに搭載しているファイバーチャネルカードのファームウェアを更新します。複数のカードを搭載している場合、最初に対象となるカードを選択する画面が表示されるので、順次カードを選択して、すべてのカードのファームウェアを更新します。

POINT

- ▶ ファームウェア更新中にサーバ本体の電源を切ったりリセットを行うと、拡張カードが破損する場合があります。

- 4 すべてのカードのファームウェアの更新が終了し、DOS プロンプトが表示されたら、ドライバーズ CD を取り出して、サーバ本体の電源を切ります。



メンテナンス区画の作成

システム異常時の対応の1つに、メンテナンス区画を使用した復旧方法があります。

メンテナンス区画の作成方法を以下に示します。

- 1 サーバ本体の電源を入れ、ドライバーズ CD をセットします。
- 2 「2. Make maintenance partition (startup only)」を選択して、【Enter】キーを押します。
- 3 使用許諾契約を確認して、【Y】キーを押します。
メンテナンス区画領域確保後、サーバ本体が自動的に再起動します。

POINT

▶ メンテナンス区画には、約 100MB 使用されます。

- 4 「1. DEFAULT」を選択して、【Enter】キーを押します。
- 5 「メンテナンス区画の構築が正常に終了しました。」と表示されたら、【Enter】キーを押します。
サーバ本体が再起動します。
- 6 ドライバーズ CD をサーバ本体から取り出します。

POINT

▶ Windows 2000 Datacenter Server の「スタート」ボタン → 「設定」 → 「コントロールパネル」 → 「管理ツール」 → 「コンピュータの管理」 → 「ディスクの管理」では、メンテナンス区画のことが「EISA ユーティリティ」と表示されます。
この区画は削除しないでください。

8 ソフトウェアをインストールする

OS をインストールします。

それぞれ以下の操作を行ってください。

ディスクレスタイプの場合：

→ 「Windows 2000 Server をガイドモードでインストールする」(P.19)

DTC タイプの場合：

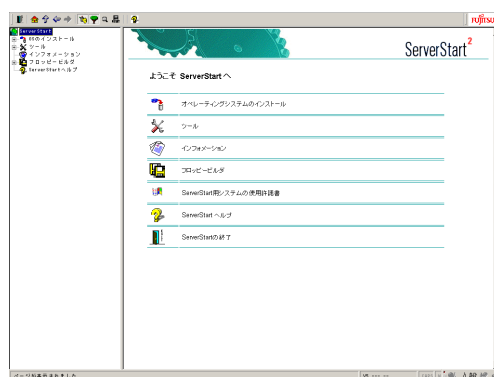
→ 「Windows 2000 Datacenter Server をインストールする」(P.20)

ガイドモード以外のインストール方法については、『ソフトウェアガイド 第3章 サーバのインストール』を参照してください。

Windows 2000 Server をガイドモードでインストールする

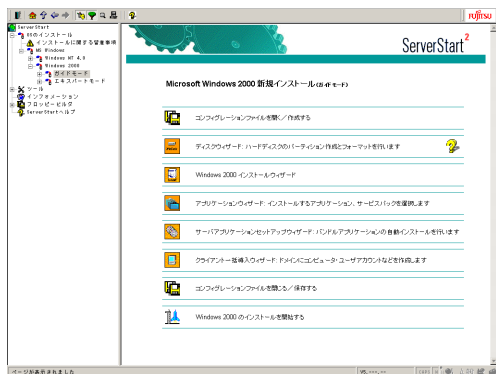
ガイドモードでは、ウィザードに従って設定を行い、サーバに OS と高信頼ツールをインストールします。

- 1 フロッピーディスクドライブに、ServerStart フロッピーディスクをセットして「作成」をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクの作成画面が表示されます。
- 2 「ServerStart フロッピーディスクを作成する」をクリックします。
「フロッピーの内容を消去します。よろしいですか？」のメッセージが表示されます。
- 3 「はい」をクリックします。
ServerStart フロッピーディスクが作成され、作成が完了するとメッセージが表示されます。
- 4 「OK」をクリックします。
ServerStart のメイン画面が表示されます。



- 5 「オペレーティングシステムのインストール」をクリックします。

- 6 [Microsoft Windows Operating System のインストール] をクリックします。
- 7 インストールする OS をクリックします。
- 8 [(OS) のインストーラーガイドモード] をクリックします。
- 選択した OS のガイドモードが起動します。
- Windows 2000 Server を選択した場合の画面例



- 9 「コンフィグレーションファイルを開く／作成する」をクリックします。
- ファイル名「SerStartBatch. ini」を確認し、[作成] をクリックします。
- 10 順番にウィザードをクリックして、サーバ情報を入力していきます。各ウィザード画面の **[?]** をクリックすると、項目の説明や、設定のヒントが表示されます。各ウィザードについて、詳細は『ソフトウェアガイド 3.2 ガイドモード』を参照してください。

1. RAID ウィザード

オンボード IDE RAID の設定を行います。

2. ディスクウィザード

ハードディスクの区画作成と、フォーマットを行います。

3. (OS) インストールウィザード

コンピュータ情報、ユーザ情報、ネットワークプロトコルなどを設定します。

4. アプリケーションウィザード

クライアントセットアップのための WizardConsole や、高信頼ツールのインストールを設定します。

5. サーバアプリケーションセットアップウィザード

オールインワンタイプをご購入の場合は、インストールするサーバアプリケーションの設定を行います。

6. クライアント一括導入ウィザード

アプリケーションウィザードで WizardConsole をインストールした場合に、クライアントのセットアップ情報を設定します。

- 11 [コンフィグレーションファイルを閉じる／保存する] をクリックします。
- ファイル名「SerStartBatch. ini」を確認し、[保存] をクリックします。
- 12 [(OS) のインストールを開始する] をクリックします。
- 13 [開始] をクリックします。

画面の指示に従って操作します。OS の CD-ROM をセット後、使用許諾画面が表示されます。

画面の指示に従って操作してください。

重要

- ▶ 設定した内容に誤りがあると、エラーが表示されます。正しい値を直接入力して、処理を続行してください。
- ▶ ファイルコピーが終了すると、CD-ROM およびフロッピーディスクを抜くよう、メッセージが表示されます。必ず指示に従って、CD-ROM およびフロッピーディスクを取り出してください。
- ▶ サーバアプリケーションのインストールを設定した場合は、アプリケーションセットアップ画面が表示されます。ARCserve2000 をインストールする場合は、「BrightStor ARCserve 2000/ARCserve 2000」を選択し、「アプリケーション資源の設定」画面の「アプリケーションCD-ROM ボリューム名」を「As2000aewe」に変更してください。
- ▶ SCSI アレイコントローラカードをお使いの場合、RAID ユーティリティのインストールが行われます。インストールの最後で再起動を行うかのメッセージが表示された場合、再起動は行わないでください。

Windows 2000 Datacenter Server をインストールする

Windows 2000 Datacenter Server をインストールします。

- 1 ドライバーズCDからドライバーズディスクを作成します。
1. サーバ本体の電源を入れ、ドライバーズCD をセットします。
 2. 「3. Drivers Disk(Using diskette Utility)」を選択して、【Enter】キーを押します。
- ドライバーズディスク作成画面が表示されます。
3. 作成するドライバーズディスクを選択します。
 4. メッセージに従って、フロッピーディスクをフロッピーディスクドライブにセットし、【Enter】キーを押します。
- 自動的にフロッピーディスクがフォーマットされ、コピーが開始されます。
- ドライバーズディスクの作成が終了すると、ドライバーズディスクのラベル画面が表示されます。

5. ラベル画面の内容を確認して【Enter】キーを押します。

ドライバズディスク選択画面に戻ります。

引き続きドライバズディスクを作成する場合は、手順3～手順5の操作を繰り返します。

6. 【Esc】キーを押して、ドライバズディスク選択画面を閉じます。

7. ドライバズCDおよびドライバズディスクを取り出します。

- 2 リカバリ CD-ROM をセットします。

- 3 サーバ本体の起動後、セットアップ画面表示直後に、【F6】キーを押すメッセージが表示されますが、【F5】キーを押してください。

OS インストール先にドライバが必要になるデバイスをご使用の場合は、続けて【F6】キーを押してください。

POINT

- ▶ ファンクションキーの入力は、【F5】キー、【F6】キーの順に連続して入力してください。
- ▶ SCSI アレイコントローラカード (PG-142D) やファイバーチャネルカード (PG-FC102) に接続されている媒体に OS をインストールする場合は、それぞれのドライバが必要となります。

- 4 画面の指示に従って、デバイスドライバをインストールします。

インストールの途中でフロッピーディスクを要求された場合は、ドライバズディスクをセットしてください。

POINT

- ▶ HAL ドライバをインストールする場合は、「Other」を選択し、画面の指示に従って HAL Driver FD をフロッピーディスクドライブにセットしてください。

- 5 以降、セットアッププログラムの指示に従って、インストールを続行してください。

POINT

- ▶ セットアッププログラムが再起動を行う場合は、ドライバディスクおよびリカバリ CD-ROM をサーバ本体から取り出してください。

- 6 Windows 2000 をインストールしたあと、不明なデバイスとなるデバイスは、ドライバズ CD に格納されているドライバを使用します。デバイスドライバのアップグレードウィザードから適切なドライバをインストールしてください。

すべての処理が終了すると、インストールした OS が起動します。これでインストールは終了です。

OS インストール後、サーバを運用する前に、『ソフトウェアガイド』の「第4章 OS インストール後の操作」および「第5章 高信頼ツール」を参照し、必要な設定を行ってください。

9 メモリダンプ用の領域を確保する

メモリダンプを取得するための設定を行います。メモリダンプの設定をしておくと、STOP エラー（致命的なシステムエラー）が発生した場合に、自動的にデバッグ情報が保存されます。保存されたメモリダンプにより、エラー発生時の原因を分析するのに役立ちます。

メモリダンプを取得するには、ページングファイルとメモリダンプファイルの作成用に、それぞれ以下のディスク空き容量が必要です。

種類	ページングファイル ^{(*)1}	メモリダンプファイル ^{(*)2}
最小メモリダンプ (64KB)	2MB 以上	64KB
カーネルメモリダンプ	搭載メモリサイズによって、50 ～ 800MB	
完全メモリダンプ	搭載メモリ容量+1MB以上	搭載メモリ容量

*1) システムがインストールされているドライブに必要な空き容量。ページングファイルは、OS インストール時に作成されます。ファイル名は、PAGEFILE.SYS となります。

*2) 任意のドライブに必要な空き容量。メモリダンプファイルは、STOP エラー発生時にしか作成されません。STOP エラー発生時に空き容量がなくなっていないように、常に確保しておいてください。

設定方法については、『ソフトウェアガイド 第4章 OS インストール後の操作』を参照してください。

10 電源を切る

いったん電源を切ります。

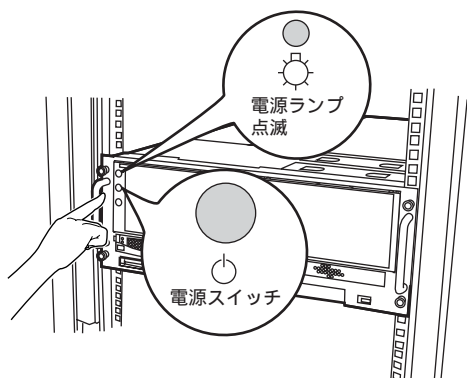
重要

- ▶ 次の操作手順で電源を切ってください。操作手順に反すると、データが破壊されるおそれがあります。
- ▶ 電源を切ったあと、再び電源を入れるときは 10 秒以上待ってから電源スイッチを押してください。電源を切ったあとすぐに電源を入れると、サーバ本体の誤動作、および故障の原因になります。

- 1 フロッピーディスクドライブおよびDVD-ROMドライブなどに媒体がセットされていないことを確認します。

2 OSを終了します。

OS 終了後、サーバ本体の電源が自動的に切れます。
OS を終了してもサーバ本体の電源が切れない場合は、サーバ本体前面の電源スイッチを押します。



3 ディスプレイなどの周辺装置の電源を切ります。

11 残りのオプション装置を取り付ける

UPS 装置や「2 内蔵オプションを取り付ける」(→ P.8) で取り付けられなかったオプション装置を取り付けます。
すべてのオプション装置が接続されている場合は、「12 システムの状態を確認／退避する」(→ P.22) へお進みください。

POINT

- ▶ オプション装置の取り付け終了後、必要に応じて BIOS セットアップユーティリティや SCSI Select ユティリティの設定を行ってください。設定方法は、『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

12 システムの状態を確認／退避する

すべての設定が終了したら、システムの状態を確認するとともに、システムの設定情報を退避します。

システムの設定内容と状態を確認する

ハードウェアの接続やソフトウェアの設定が正しく行われているか確認してください。

また、運用を開始する前に、特に注意していただきたい点を以下に示します。

●ServerView のインストール

運用を開始する前に、ServerView を必ずインストールしてください。

→「8 ソフトウェアをインストールする」(P.19)

→『ソフトウェアガイド 第 5 章 高信頼ツール』

●メモリダンプを取得するための設定

メモリダンプを取得するための設定を行ってください。

→『ソフトウェアガイド 第 4 章 OSインストール後の操作』

●ServerView インストール後のブートウォッチドッグ設定

ServerView をインストールしたあとは、「ブートウォッチドッグ」の機能を有効に設定することをお勧めします。

PRIMERGY ドキュメント & ツール CD 内の『ServerView ユーザーズガイド 第 3 章 ServerView の使用方法－9

ServerView』の「アクション」項目を参照してください。

●BIOS セットアップユーティリティの設定情報の復元

BIOS セットアップユーティリティの設定情報を、構成ごとに BIOS Environment Support Tools フロッピーディスクに格納してあります。本ツールを使用して、設定情報をご購入時の状態に復元できます。「BIOS Environment Support Tools」の使用方法については、『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』を参照してください。

●UPS のシャットダウン時間の設定

UPS の電源切断時間（シャットダウン指示から電源切断までの時間）は、十分な時間を設定してください。

この時間が短いと、システムがシャットダウンする前に電源が切れてしまい、データが破壊されるおそれがあります。詳細は、UPS に添付のマニュアルを参照してください。

使用する UPS	参照
NetpowerProtect	「システムシャットダウン時の注意事項について」
Smart-UPS	「PowerChute plus users guide（日本語版）」

●コンフィグレーションシートへの記入

「コンフィグレーションシート」(→ P.25) にハードウェア構成や BIOS セットアップユーティリティなどの設定値を記入してください。

重要

- ▶ 記入したシートは、紛失しないように大切に保管してください。システムに異常が発生したときやオプションの増設時に必要になります。

システムの設定情報を退避する

内蔵バッテリーの消耗によって、BIOS セットアップユーティリティで設定した情報が失われることがあります。システム情報を退避しておくことによって、失われた設定情報を元の状態に復元できます。

→『ハードウェアガイド 第 5 章 ハードウェアの設定について』

回避手順を以下に示します。

- 1 サーバ本体の電源を入れ、ドライバーズ CD またはハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクをセットします。
- 2 「Basic(BIOS Environment Support Tools)」を選択し、【Enter】キーを押します。
DOS プロンプトが表示されたら、ドライバーズ CD またはハードウェア構成ツール起動用フロッピーディスクを取り出します。
- 3 BIOS Environment Support Tools ディスクをフロッピーディスクドライブにセットします。
以下のコマンドを入力して、システム情報を回避します。
A:\>cmosutil /s <任意の回避ファイル名> 【Enter】

POINT

- ▶ 回避ファイルは、MS-DOS ファイル形式（ファイル名を最大 8 文字、拡張子を最大 3 文字）としてください。
- ▶ 回避ファイルは、BIOS Environment Support Tools のフロッピーディスク内に作成されます。

13 お客様登録

最後に、お客様登録をお願いします。

PRIMERGY では、お客様登録をお願いしています。お客様登録を行っていただくことにより、お客様への保守サービスが円滑に実施されます。

お客様登録の方法は、本サーバに添付の保証書に記載されています。登録方法には、以下の 3 つがあります。

- レジストレーション登録（リモート接続による登録）
- Web 登録（<http://www.fujitsu-osc.ne.jp/regist>）
- Fax 登録

お客様登録をされた場合とされない場合とでは、無償修理期間が以下のとおり異なります。

- お客様登録をされた場合
ご購入後 1 年間
- お客様登録をされない場合
ご購入後 3 ヶ月間

これで運用のための準備が終了しました。

運用開始後は、未然にトラブルを防止するためにも定期的にサーバ本体などのお手入れを行ってください。

→ 『ハードウェアガイド 第 6 章 保守について』

サポート & サービス

本サーバの保守について説明します。

保証について

本サーバには、保証書が添付されています。記載内容をご確認の上、大切に保管してください。

保証期間中に故障が発生した場合には、記載内容に基づき無償修理いたします。

詳細については、保証書をご覧ください。

保守サービスについて

■ PRIMESERVER WORLD 会員サービスについて

PRIMESERVER WORLD では、お客様を対象にした会員サービスをご提供しております（入会無料）。

本サービスは、ご利用のマシンをお使いの際に有効な詳細技術情報、ご利用者間の情報交換の場～談話室、新着情報や 세미나 等のメールサービスをご提供いたします。

会員サービスについては、以下を参照してください。

<http://primeserver.fujitsu.com/members.html>

皆様のご入会を、心よりお待ちしております。

■ 無償修理

本サーバは、保証書に記載された無償修理期間には、無償にて訪問修理を行っています。

なお、無償修理期間外の修理のご相談は、担当営業員または担当保守員に連絡してください。

無償修理に際しては、保証書を必ずご用意ください。

なお、お客様登録をされた場合と、されない場合とでは、無償修理期間が以下のとおり異なります。

- ・ お客様登録をされた場合
ご購入後 1 年間
- ・ お客様登録をされない場合
ご購入後 3 ヶ月間

■ 保守サポート期間について

保守サポート期間は、お客様のサーバご購入後 5 年間です。

■定期交換部品について

お客様の使用環境や使用時間により、サーバの一部の部品で保守サポート期間内に、交換が必要となる定期交換部品があります。

導入時より SupportDesk 契約またはハードウェア保守契約の定期保守契約を結ばれたお客様においては、定期交換部品の交換費用（交換部品代および交換作業代）はサービス料金に含まれており、優先的に交換いたします。なお、SupportDesk 契約が未契約、ハードウェア保守契約が定額訪問契約、またはハードウェア保守契約が未契約のお客様には、別途ご請求させていただきます。

POINT

- ▶ 本サーバでは、システムの安定稼動を目的に、保守サービス契約を結ばれることを推奨しております。
下記の定期交換部品の交換時期については、以下を参考にしてください。

●定期交換部品の交換時期

定期交換部品の交換周期は、いずれも適切な使用環境下での運用を前提としています。

動作保証範囲は 10 ～ 35℃ですが、交換時期は平均使用温度 25℃での運用を想定しており、空調のある常温で使用してください。

●定期交換部品

・電源ユニット

本サーバには 2 個あり、交換が必要です。

24 時間／日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

・冷却ファン

本サーバには 4 個あり、すべて交換が必要です。

24 時間／日運転では約 3 年間を経過すると交換時期となります。10 時間以内／日運転では保守サポート期間内に交換時期となりません。

・高機能無停電電源装置のバッテリー

電源の投入／切断時間にかかわらず約 2 年を経過すると交換時期となりますが、周囲温度により、バッテリー寿命が短縮されることがあります。詳細につきましては、高機能無停電電源装置の取扱説明書をご覧ください。

●定期交換部品の交換時期の表示

RAS 支援サービスをインストールすることで、部品の交換を促すメッセージをサーバのパネルやコンソールに表示させることができます。メッセージは、数ヶ月以内に交換を促す、おおよその目安を示しており、メッセージが表示されましたら保守サービス窓口にご連絡ください。

修理ご依頼の前に

本サーバに異常が発生した場合は、『ハードウェアガイド 6.4 トラブルシューティング』または『ソフトウェアガイド 付録 A トラブルシューティング』を参照してください。それでも解決できない異常については、担当営業員または担当保守員に連絡してください。なお、修理のご依頼前に、『ハードウェアガイド 6.8 保守員に連絡するときは』をご覧ください。修理ご依頼前の確認事項について、ご確認をお願いいたします。

リサイクルについて

■サーバ本体の廃棄について

本サーバを廃棄する場合、担当営業員または担当保守員に相談してください。本サーバは産業廃棄物として処理する必要があります。

なお、サーバを使用していた状態のまま廃棄すると、ハードディスク内の情報を第三者に見られてしまうおそれがあります。廃棄するときは、すべてのドライブをフォーマットすることをお勧めします。

ただし、フォーマットやファイルを削除しただけでは、悪意を持った第三者によってデータが復元されるおそれがあります。機密情報や見られたくない情報を保存していた場合には、市販のデータ消去ソフトなどを利用するか、または、弊社の「データ完全消去サービス」（有償）を利用し、オンサイトでデータを消去し、復元されないようにすることをお勧めします。「データ完全消去サービス」については、「ストレージ統合サービス紹介サイト」（<http://storage-system.fujitsu.com/jp/service/>）を参照してください。

■使用済電池の廃却について

使用済電池を廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分の許可を取得している会社処分に委託してください。

■液晶ディスプレイの廃棄について

液晶ディスプレイを廃棄する場合は、産業廃棄物の扱いとなりますので、産業廃棄物処分の許可を取得している会社処分に委託する必要があります。

コンフィグレーションシート

本サーバにおけるハードウェアの構成と各種セットアップの設定値を記録しておきます。
 選択設定箇所については□マークのチェックボックスを用意してありますので、設定したチェックボックスを塗りつぶすか、またレ印を付けておきます。
 なお、ご購入時の初期値は◎で示しています。また、変更禁止の設定項目については■で示しています。

ハードウェア構成

■3.5 インチ内蔵オプション

搭載位置	搭載 3.5 インチ内蔵オプション				
回転数	10,000rpm			15,000rpm	
ベイ 1	<input type="checkbox"/> 18.2GB	<input type="checkbox"/> 36.4GB	<input type="checkbox"/> 73.4GB	<input type="checkbox"/> 18.2GB	<input type="checkbox"/> 36.4GB
ベイ 2	<input type="checkbox"/> 18.2GB	<input type="checkbox"/> 36.4GB	<input type="checkbox"/> 73.4GB	<input type="checkbox"/> 18.2GB	<input type="checkbox"/> 36.4GB

■CPU

[CPU / メモリ拡張ベースボード (標準搭載、下側)]

搭載タイプ	搭載個数
<input type="checkbox"/> インテル® Xeon™ プロセッサ MP 2.0GHz/2MB	<input type="checkbox"/> 2 個 <input type="checkbox"/> 4 個
<input type="checkbox"/> インテル® Xeon™ プロセッサ MP 1.9GHz/1MB	

[CPU / メモリ拡張ベースボード (オプション、上側)]

搭載タイプ	搭載個数
<input type="checkbox"/> インテル® Xeon™ プロセッサ MP 2.0GHz/2MB	<input type="checkbox"/> 4 個
<input type="checkbox"/> インテル® Xeon™ プロセッサ MP 1.9GHz/1MB	

■RAM モジュール

[CPU / メモリ拡張ベースボード (標準搭載、下側)]

メモリバンク	DIMM スロット	搭載 RAM モジュール	メモリ・ミラーリング
1	スロット 1	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	<input type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled
	スロット 3	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 5	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 7	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
2	スロット 9	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 11	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 13	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 15	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
3	スロット 2	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 4	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 6	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 8	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
4	スロット 10	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 12	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 14	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 16	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	

[CPU / メモリ拡張ベースボード (オプション、上側)]

メモリバンク	DIMM スロット	搭載 RAM モジュール	メモリ・ミラーリング
1	スロット 1	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	<input type="checkbox"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled
	スロット 3	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 5	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 7	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
2	スロット 9	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 11	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 13	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 15	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
3	スロット 2	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 4	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 6	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 8	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
4	スロット 10	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 12	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 14	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	
	スロット 16	<input type="checkbox"/> 512MB <input type="checkbox"/> 1GB	

■オプションカード

拡張カード (型名)	PCI スロット					
	1	2	3	4	5	6
リモートサービスボード (標準搭載)	●	—	—	—	—	—
SCSI アレイコントローラカード (PG-142D)	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
SCSI カード (PG-128)	—	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ファイバーチャネルカード (PG-FC102)	—	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
LAN カード (PG-1851)	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
LAN カード (PG-1861)	—	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
LAN カード (PG-1871)	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
LAN カード (PG-188)	—	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
LAN カード (PG-189)	—	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
RS-232C カード (GP5-162)	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
通信カード V/X (PG-1631)	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
ISDN カード (PG-1651)	—	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

BIOS セットアップ項目

各メニューの詳細なマークは、次を示します。マークを以下に示します。

□：設定項目 ◎：ご購入設定値 ■変更禁止

■Main メニュー

System Summary
System Summary メニューを表示
System Information
System Information メニューを表示
Devices and I/O Ports
Devices and I/O Ports メニューを表示
Date and Time
Date and Time メニューを表示
System Security
System Security メニューを表示
Start Options
Start Options メニューを表示
Advanced Setup
Advanced Setup メニューを表示
Error Logs
Error Logs メニューを表示

■System Summary メニュー

Processor Summary
【Enter】
CPUIDs
CPU ID を表示
Processor Speeds
CPU の動作周波数を表示
L2 Cache Sizes
CPU の 2 次キャッシュ容量を表示
L3 Cache Sizes
CPU の 3 次キャッシュ容量を表示
Installed Memory
本サーバが使用できるメモリサイズを表示
System Memory after Mirroring
メモリ・ミラーリング機能の有効時に使用可能なメモリ容量を表示
Diskette Drive A
フロッピーディスクドライブのタイプを表示
Primary Master Device
プライマリ IDE コネクタのマスタに取り付けられたドライブ装置を表示
Primary Slave Device
プライマリ IDE コネクタのスレーブに取り付けられたドライブ装置を表示
Secondary Mater Device
セカンダリ IDE コネクタのマスタに取り付けられたドライブ装置を表示
Secondary Slave Device
セカンダリ IDE コネクタのスレーブに取り付けられたドライブ装置を表示
Mouse
マウスの接続状態を表示
System Memory Type
搭載メモリのタイプを表示

■System Information メニュー

Product Data
【Enter】
Machine Type/Model
本サーバのモデル名を表示
System Serial Number
システムのシリアル番号を表示
System UUID Number
システムの UUID を表示
System Board Identifier
システムボードの ID を表示
BIOS Version
BIOS の版数を表示
BIOS Date
BIOS のリリース日（ビルド日）を表示
BIOS Build Level
BIOS のビルド識別コードを表示
Diagnostic Version
Diagnostics（診断プログラム）のファームウェア版数を表示
Diagnostic Date
Diagnostics ファームウェアのリリース日（ビルド日）を表示
Diagnostic Build Level
Diagnostics ファームウェアのビルド識別番号を表示
ASM Adapter Version
ASM Adapter（システム管理コントローラ）のファームウェア版数を表示
ASM Adapter Date
ASM Adapter ファームウェアのリリース日（ビルド日）を表示
ASM Adapter Build Level
ASM Adapter ファームウェアのビルド識別番号を表示
Hot Plug Controller
ホットプラグコントローラのファームウェア版数を表示
System Card Data
【Enter】
Model
システムのモデルコードを表示
Sub Model
システムのサブモデルコードを表示
System Serial
システムのシリアル番号を表示
Planar
I/O ベースボードの情報を表示
Processor Card 1
CPU / メモリ拡張ベースボード（標準搭載、下側）の情報を表示
Processor Card 2
CPU / メモリ拡張ベースボード（オプション、上側）の情報を表示
PCI Card
PCI-X ベースボードの情報を表示
Power Supply #1
電源ユニット 1 の情報を表示
Power Supply #2
電源ユニット 2 の情報を表示
DASD Backplane
SCSI バックプレーンの情報を表示
Power Backplane
電源バックプレーンの情報を表示

■Device and I/O Ports メニュー

Serial Port A
■ Disabled □ PnP □ Auto-configure
□ Port 3F8, IRQ4 □ Port 2F8, IRQ3
□ Port 3E8, IRQ4 □ Port 2E8, IRQ3
Mouse
◎ Installed □ Not Installed
Planar Ethernet
◎ Enabled □ Disabled
Planar SCSI
◎ Enabled □ Disabled
Diskette Controller
■ Enabled □ Disabled
Diskette Drive A
□ Not installed ■ 1.44 MB 3.5"
IDE Configuration Menu
【Enter】
Primary IDE Channel
■ Enabled □ Disabled
Master Device
マスタの設定状態を表示
Slave Device
スレーブの設定状態を表示
Secondary IDE Channel
□ Enabled ■ Disabled
Master Device
マスタの設定状態を表示
Slave Device
スレーブの設定状態を表示

■Date and Time メニュー

Time
システム時刻を設定
Date
システム日付を設定

■System Security メニュー

Power-on Password
【Enter】
Enter Power-on Password
特定ユーザ向けのパスワードを入力
Enter Power-on Password again
特定ユーザ向けのパスワードを再入力
Change Power-on Password
特定ユーザ向けのパスワードを変更
Delete Power-on Password
特定ユーザ向けのパスワードを消去
Administrator Password
【Enter】
Enter Power-on Password
システム管理者用のパスワードを入力
Enter Administrator Password again
システム管理者用のパスワードを再入力
Change Administrator Password
システム管理者用のパスワードを変更
Delete Administrator Password
システム管理者用のパスワードを消去

Remote Control Security Settings 【Enter】 Current Failed Login Threshold Count <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input checked="" type="radio"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 10 Current Automatic Lockout Delay <input type="checkbox"/> 1 minute <input checked="" type="radio"/> 5 minutes <input type="checkbox"/> 10 minutes <input type="checkbox"/> 15 minutes <input type="checkbox"/> 30 minutes <input type="checkbox"/> 1 Hour <input type="checkbox"/> 2 Hours <input type="checkbox"/> 3 Hours <input type="checkbox"/> 8 Hours <input type="checkbox"/> 24 Hours Enter Remote Control Password リモートコンソール用のパスワードを入力 Enter Remote Control Password Again リモートコンソール用のパスワードを再入力 Save New Remote Control Password リモートコンソール用のパスワードを保存 Delete Power-on Password リモートコンソール用のパスワードを消去
--

Keyboardless Operation <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled
Keyboard NumLock State <input type="checkbox"/> On <input checked="" type="radio"/> Off
USB Legacy <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled
Boot on POST/BIOS Error <input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled
Boot Fail Count <input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled ※ CMOS デフォルト設定値は「Enabled」です。
Rehook INT 19th <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled ※ ご購入時のハードウェア構成により設定が異なる場合があります。
Virus Detection <input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled

■ Start Options メニュー

Start Sequence Options 【Enter】 Primary Startup Sequence First Startup Device <input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="radio"/> CD-ROM <input type="checkbox"/> LS-120 <input type="checkbox"/> Network <input type="checkbox"/> Diskette Drive 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 1 Second Startup Device <input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> CD-ROM <input type="checkbox"/> LS-120 <input type="checkbox"/> Network <input checked="" type="radio"/> Diskette Drive 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 1 Third Startup Device <input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> CD-ROM <input type="checkbox"/> LS-120 <input type="checkbox"/> Network <input type="checkbox"/> Diskette Drive 0 <input checked="" type="radio"/> Hard Disk 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 1 Fourth Startup Device <input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> CD-ROM <input type="checkbox"/> LS-120 <input checked="" type="radio"/> Network <input type="checkbox"/> Diskette Drive 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 1 Wake On LAN <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled Wakeup On LAN Startup Sequence First Startup Device <input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> CD-ROM <input type="checkbox"/> LS-120 <input checked="" type="radio"/> Network <input type="checkbox"/> Diskette Drive 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 1 Second Startup Device <input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> CD-ROM <input type="checkbox"/> LS-120 <input type="checkbox"/> Network <input checked="" type="radio"/> Diskette Drive 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 1 Third Startup Device <input type="checkbox"/> Disabled <input checked="" type="radio"/> CD-ROM <input type="checkbox"/> LS-120 <input type="checkbox"/> Network <input type="checkbox"/> Diskette Drive 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 1 Fourth Startup Device <input type="checkbox"/> Disabled <input type="checkbox"/> CD-ROM <input type="checkbox"/> LS-120 <input type="checkbox"/> Network <input type="checkbox"/> Diskette Drive 0 <input checked="" type="radio"/> Hard Disk 0 <input type="checkbox"/> Hard Disk 1
Planar Ethernet PXE/DHCP <input checked="" type="radio"/> Planar Ethernet <input type="checkbox"/> Disabled
PCI Device Boot Priority <input checked="" type="radio"/> Planar SCSI <input type="checkbox"/> Slot 1 <input type="checkbox"/> Slot 2 <input type="checkbox"/> Slot 3 <input type="checkbox"/> Slot 4 <input type="checkbox"/> Slot 5 <input type="checkbox"/> Slot 6 ※ ご購入時のハードウェア構成により設定が異なる場合があります。
Disketteless Operation <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled
Displayless Operation <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled

■ Advanced Setup メニュー

System Partition Visibility <input type="checkbox"/> Visible <input checked="" type="checkbox"/> Hidden
CEC2 Processor/Memory Card State <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled
CPU Socket State 【Enter】 CPU 1 <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled CPU 2 <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled CPU 3 <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled CPU 4 <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled CPU 5 <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled CPU 6 <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled CPU 7 <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled CPU 8 <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled
Memory Settings 【Enter】 Memory Mirroring Settings 【Enter】 CEC 1 <input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled CEC 2 <input type="checkbox"/> Enabled <input checked="" type="radio"/> Disabled

CEC1 【Enter】 Row 0 <input type="checkbox"/> Row Is Empty <input checked="" type="radio"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 1 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 2 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 3 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 4 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 5 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 6 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 7 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled
CEC2 【Enter】 Row 0 <input type="checkbox"/> Row Is Empty <input checked="" type="radio"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 1 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 2 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 3 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 4 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 5 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 6 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled Row 7 <input checked="" type="radio"/> Row Is Empty <input type="checkbox"/> Row Is Enabled <input type="checkbox"/> Row Is Disabled
CPU Options 【Enter】 Hyper-Threading Technology <input checked="" type="radio"/> Disabled <input type="checkbox"/> Enabled System Cache Type <input checked="" type="checkbox"/> Write Back

PCI Slot/Device Information

[Enter]

Slot 0 : Ethernet Controller [01-04-00 ^(*)]

IRQ

■ 3 ■ 4 ☒ 5 ■ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

ROM Segment

☒ Yes ■ No

Option ROM

☒ Enabled ■ Disabled

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 0 : SCSI Bus Controller [01-03-01 ^(*)]

IRQ

■ 3 ■ 4 ☒ 5 ■ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

ROM Segment

☒ Yes ■ No

Option ROM

☒ Enabled ■ Disabled

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 0 : SCSI Bus Controller [01-03-00 ^(*)]

IRQ

■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ☒ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 0 : Universal Serial Bus [01-05-03 ^(*)]

IRQ

■ 3 ☒ 4 ■ 5 ■ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 0 : Universal Serial Bus [01-05-02 ^(*)]

IRQ

■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ☒ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 0 : Bridge Device [01-04-00 ^(*)]

IRQ

■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ☒ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 0 : VGA Compatible Controller [01-03-00 ^(*)]

IRQ

■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ☒ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

ROM Segment

☒ Yes ■ No

Option ROM

☒ Enabled ■ Disabled

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 1 : Remote Service Board [02-01-01 ^(*)]

IRQ

■ 3 ■ 4 ■ 5 ☒ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 1 : Remote Service Board [02-01-00 ^(*)]

IRQ

■ 3 ■ 4 ■ 5 ■ 9 ■ 10 ■ 11

■ 15 ☒ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 2

IRQ

■ 3 ■ 4 ☐ 5 ■ 9 ☐ 10 ☐ 11

☐ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

ROM Segment

☒ Yes ■ No

Option ROM

☒ Enabled ■ Disabled

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 3

IRQ

■ 3 ■ 4 ☐ 5 ■ 9 ☐ 10 ☐ 11

☐ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

ROM Segment

☒ Yes ■ No

Option ROM

☒ Enabled ■ Disabled

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 4

IRQ

■ 3 ■ 4 ☐ 5 ■ 9 ☐ 10 ☐ 11

☐ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

ROM Segment

☒ Yes ■ No

Option ROM

☒ Enabled ■ Disabled

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 5

IRQ

■ 3 ■ 4 ☐ 5 ■ 9 ☐ 10 ☐ 11

☐ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

ROM Segment

☒ Yes ■ No

Option ROM

☒ Enabled ■ Disabled

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Slot 6

IRQ

■ 3 ■ 4 ☐ 5 ■ 9 ☐ 10 ☐ 11

☐ 15 ■ Sys Generated

Latency Timer

☒ Yes ■ No

ROM Segment

☒ Yes ■ No

Option ROM

☒ Enabled ■ Disabled

IO Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Memory Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Bus Master Decode

☒ Enabled ■ Disabled

Advanced System Management Processor Settings 【Enter】 Reboot System on NMI <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="radio"/> Disabled
Scalability Port Configuration <input type="checkbox"/> Node 0, Port 0 - Node 1, Port 0 <input type="checkbox"/> Node 0, Port 1 - Node 1, Port 1

*1) [PCI バス番号 - PCI デバイス番号 - PCI 機能番号] を示す

■Error Logs メニュー

POST Error Log 【Enter】 Entry 1 POST エラーの情報を表示 Entry 2 POST エラーの情報を表示 Entry 3 POST エラーの情報を表示 Clear error logs POST エラーの情報を削除
System Error Log 【Enter】 Date/Time システムエラーの発生時刻を表示 DMI Type システムエラー DMI タイプを表示 Source システムエラーの発信元を表示 Error Code システムエラーのエラーコードを表示 Error Data システムエラーのエラーデータを表示 Clear error logs システムエラーの情報を削除

SCSI Select ユーティリティ項目

設定値を変更した場合は、以下の表に必ず設定値を記入してください。

■Configure/View SCSI Controller Settings メニューの設定項目

設定項目	設定値 (◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止)
SCSI Bus Interface Definitions	
SCSI Controller ID	<input type="checkbox"/> 0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 ◎ <input checked="" type="radio"/> 7 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 15
SCSI Controller Parity	◎ <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled
SCSI Controller Termination	◎ <input checked="" type="radio"/> Enabled <input type="checkbox"/> Disabled

Additional Options

- Boot Device Configuration →①へ
SCSI Device Configuration →②へ
Advanced Configuration →③へ

① Boot Device Configuration

設定項目	設定値 (◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止)
Master SCSI Controller	AIC-7899 at slot 00 02:08:00 (表示のみ)
Boot SCSI Controller	<input type="checkbox"/> AIC-7899 A at slot xx xx:xx:xx <input type="checkbox"/> AIC-7899 B at slot xx xx:xx:xx
Boot SCSI ID	◎ <input checked="" type="radio"/> 0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 7 <input type="checkbox"/> 8 <input type="checkbox"/> 9 <input type="checkbox"/> 10 <input type="checkbox"/> 11 <input type="checkbox"/> 12 <input type="checkbox"/> 13 <input type="checkbox"/> 14 <input type="checkbox"/> 15
Boot LUN Number	◎ <input checked="" type="radio"/> 0 <input type="checkbox"/> 1 <input type="checkbox"/> 2 <input type="checkbox"/> 3 <input type="checkbox"/> 4 <input type="checkbox"/> 5 <input type="checkbox"/> 6 <input type="checkbox"/> 7

② SCSI Device Configuration

設定項目	設定値 (◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止)			
	SCSSI Device ID #0	SCSSI Device ID #1	SCSSI Device ID #2	SCSSI Device ID #3
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN
Initiate Wide Negotiation	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
Enable Disconnection	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
Send Start Command	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
BIOS Multiple LUN Support	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No
Include BIOS Scan	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
	SCSSI Device ID #4	SCSSI Device ID #5	SCSSI Device ID #6	SCSSI Device ID #7
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN
Initiate Wide Negotiation	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
Enable Disconnection	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
Send Start Command	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
BIOS Multiple LUN Support	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No
Include BIOS Scan	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
	SCSSI Device ID #8	SCSSI Device ID #9	SCSSI Device ID #10	SCSSI Device ID #11
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN
Initiate Wide Negotiation	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
Enable Disconnection	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
Send Start Command	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
BIOS Multiple LUN Support	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No
Include BIOS Scan	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
	SCSSI Device ID #12	SCSSI Device ID #13	SCSSI Device ID #14	SCSSI Device ID #15
Sync Transfer Rate (MB/Sec)	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN	◎ 160 □ 80.0 □ 53.4 □ 40.0 □ 32.0 □ 20.0 □ 16.0 □ 13.4 □ 10.0 □ ASYN
Initiate Wide Negotiation	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
Enable Disconnection	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
Send Start Command	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No
BIOS Multiple LUN Support	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No	□ Yes ◎ No
Include BIOS Scan	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No	◎ Yes □ No

③ Advanced Configuration

設定項目	設定値 (◎ : ご購入時設定値 ■ : 変更禁止)
Reset SCSI Bus at IC Initialization	◎ Enabled □ Disabled
Display <Ctrl><A> Message During BIOS Initialization	◎ Enabled □ Disabled
Extended Int 13 Translation for DOS Drives > 1GByte	◎ Enabled □ Disabled
POST Display Mode	◎ Verbose □ Silent □ Diagnostic
SCSI Controller Int 13 Support	◎ Enabled □ Disabled:NOT Scan □ Disabled:Scan bus
Support Removable Disks Under Int 13 as Fixed Disks	◎ Disabled □ Boot Only □ All Disks
BIOS Support for Bootable CD-ROM	◎ Enabled □ Disabled

RAID 設計シート (SCSI)

(搭載 PCI スロット)

■ロジカルドライブ情報

論理ドライブ (LSU ^(*))	RAIDレベル	容量	物理ドライブ
(例) (0, 0, 0, 0)	0 3 5 0+1	17300 MB	(CH=0) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=1) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=2) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=3) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15
(例) (0, 0, 2, 0)	0 3 5 0+1	17300 MB	(CH=0) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=1) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=2) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=3) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15
(, , ,)	0 1 5 0+1		(CH=0) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=1) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=2) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=3) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15
(, , ,)	0 1 5 0+1		(CH=0) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=1) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=2) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=3) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15
(, , ,)	0 1 5 0+1		(CH=0) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=1) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=2) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=3) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15
(, , ,)	0 1 5 0+1		(CH=0) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=1) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=2) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=3) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15
(, , ,)	0 1 5 0+1		(CH=0) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=1) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=2) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=3) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15
(, , ,)	0 1 5 0+1		(CH=0) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=1) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=2) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15 (CH=3) ID= 0,1,2,3,4,5,6,7,8,9,10,11,12,13,14,15

)ホットスベアの場合は「HS(, *, *, *)」のように記述します。

■フィジカルドライブ情報

搭載HDDベイ	SCSI-CH	SCSI-ID	型名	容量	バージョン	LSU ^(*)
(例) Bay(1)	CH= (0)	ID= (0)	MAN3184MC	17521MB	0107	(0, 0, 0, 0)
(例) Bay(2)	CH= (0)	ID= (0)	MAN3184MC	17521MB	0107	(0, 0, 0, 0)
(例) Bay(3)	CH= (0)	ID= (0)	MAN3184MC	17521MB	0107	(0, 0, 2, 0)
(例) Bay(4)	CH= (0)	ID= (0)	MAN3184MC	17521MB	0107	(0, 0, 2, 0)
Bay()	CH= ()	ID= ()				(, , ,)
Bay()	CH= ()	ID= ()				(, , ,)
Bay()	CH= ()	ID= ()				(, , ,)
Bay()	CH= ()	ID= ()				(, , ,)
Bay()	CH= ()	ID= ()				(, , ,)
Bay()	CH= ()	ID= ()				(, , ,)
Bay()	CH= ()	ID= ()				(, , ,)
Bay()	CH= ()	ID= ()				(, , ,)

)ホットスベアの場合は「HS(, *, *, *)」のように記述します。

使用許諾契約書

<div><div>使用許諾契約書</div><div><p>富士通株式会社（以下弊社といいます）では、本サーバにインストール、もしくは添付されているソフトウェア（以下本ソフトウェアといいます）をご使用いただく権利をお客様に対して許諾するにあたり、下記「ソフトウェアの使用条件」にご同意いただくことを使用の条件とさせていただきます。</p><p>なお、お客様が本ソフトウェアのご使用を開始された時点で、本契約にご同意いただいたものといたしますので、本ソフトウェアをご使用いただく前に必ず下記「ソフトウェアの使用条件」をお読みいただきますようお願い申し上げます。ただし、本ソフトウェアのうちの一部ソフトウェアに別途の「使用条件」もしくは「使用許諾契約書」等が、添付されている場合は、本契約に優先して適用されますので、ご注意ください。</p><div>ソフトウェアの使用条件</div><div><div><div>1.</div><div>本ソフトウェアの使用および著作権</div></div><div><p>お客様は、本ソフトウェアを、日本国内において本サーバでのみ使用できます。なお、お客様は本サーバのご購入により、本ソフトウェアの使用権のみを得るものであり、本ソフトウェアの著作権は引き続き弊社または開発元である第三者に帰属するものとします。</p></div><div><div>2.</div><div>バックアップ</div></div><div><p>お客様は、本ソフトウェアにつきまして、1部の予備用（バックアップ）媒体を作成することができます。</p></div><div><div>3.</div><div>本ソフトウェアの別ソフトウェアへの組み込み</div></div><div><p>本ソフトウェアが、別のソフトウェアに組み込んで使用されることを予定した製品である場合には、お客様はマニュアル等記載の要領に従って、本ソフトウェアの全部または一部を別のソフトウェアに組み込んで使用することができます。</p></div><div><div>4.</div><div>複製</div></div><div><div><div>(1)</div><div>本ソフトウェアの複製は、上記「2.」および「3.」の場合に限定されるものとします。</div></div><div><p>本ソフトウェアが組み込まれた別のソフトウェアについては、マニュアル等で弊社が複製を許諾していない限り、予備用（バックアップ）媒体以外には複製は行わないでください。</p><p>ただし、本ソフトウェアに複製防止処理がほどこしてある場合には、複製できません。</p></div><div><div><div>(2)</div><div>前号によりお客様が本ソフトウェアを複製する場合、本ソフトウェアに付されている著作権表示を、変更、削除、隠蔽等しないでください。</div></div></div><div><div>5.</div><div>第三者への譲渡</div></div><div><p>お客様が本ソフトウェア（本サーバに添付されている媒体、マニュアルならびに予備用バックアップ媒体を含みます）を第三者へ譲渡する場合には、本ソフトウェアがインストールされたサーバとともに本ソフトウェアのすべてを譲渡することとします。なお、お客様は、本サーバに添付されている媒体を本サーバとは別に第三者へ譲渡することはできません。</p></div><div><div>6.</div><div>改造等</div></div><div><p>お客様は、本ソフトウェアを改造したり、あるいは、逆コンパイル、逆アセンブルをともなうリバースエンジニアリングを行うことはできません。</p></div><div><div>7.</div><div>保証の範囲</div></div><div><div><div>(1)</div><div>弊社は、本ソフトウェアとマニュアル等との不一致がある場合、本サーバをご購入いただいた日から 90 日以内に限り、お申し出をいただければ当該不一致の修正に関して弊社が必要と判断した情報を提供いたします。</div></div><div><p>また、本ソフトウェアの記録媒体等に物理的な欠陥（破損等）等がある場合、本サーバをご購入いただいた日から 1ヶ月以内に限り、不良品と良品との交換に応じるものとします。</p></div><div><div><div>(2)</div><div>弊社は、前号に基づき負担する責任以外の、本ソフトウェアの使用または使用不能から生じるいかなる損害（逸失利益、事業の中断、事業情報の喪失その他の金銭的損害を含みますが、これに限られないものとします）に関しても、一切責任を負いません。たとえ、弊社がそのような損害の可能性について知らされていた場合も同様とします。</div></div><div><div><div>(3)</div><div>本ソフトウェアに第三者が開発したソフトウェアが含まれている場合においても、第三者が開発したソフトウェアに関する保証は、弊社が行う上記 (1) の範囲に限られ、開発元である第三者は本ソフトウェアに関する一切の保証を行いません。</div></div></div><div><div>8.</div><div>ハイセイフティ</div></div><div><p>本ソフトウェアは、一般事務用、パーソナル用、家庭用などの一般的用途を想定したものであり、ハイセイフティ用途での使用を想定して設計・製造されたものではありません。お客様は、当該ハイセイフティ用途に要する安全性を確保する措置を施すことなく、本ソフトウェアを使用しないものとします。ハイセイフティ用途とは、下記の例のような、極めて高度な安全性が要求され、仮に当該安全性が確保されない場合、直接生命・身体に対する重大な危険性を伴う用途をいいます。</p></div></div></div><div><div>記</div><div>原子力核制御、航空機飛行制御、航空交通管制、大量輸送運行制御、生命維持、兵器発射制御など</div></div></div></div></div></div>	富士通株式会社
--	---------

- 本書の内容は、改善のため事前連絡なしに変更することがあります。

●本書に記載されたデータの使用に起因する、第三者の特許権およびその他の権利の侵害については、当社はその責を負いません。

●無断転載を禁じます。

PRIMERGY T850

はじめにお読みください

B7FH-1041-01-00

発行日 2003 年 1 月

発行責任 富士通株式会社